草木實驗

盆栽仕立秘法

稻翁春郊著

東京博文館發行

序

寸小の樹木を陶磁の盆中に培養し、天眞の風趣を寸眸の間に樂しましむる者、是れ盆栽術の妙技ならずや。由來邦人斯術に巧に、貧富を統へて愛玩せざるなし。今や文運日新、百事繁忙に會す、此間能く天眞の幽趣を味ひ、百忙一閑以て養神の策なかるべからず。斯術の如き、優に人生必備の樂事と謂ふべき乎。著者久しく斯術に從事し、實驗自得、素養最も深し。今本書を著はして同好の諸子に頒つ、又是れ昭代の嘉友と稱すべき也。

壬寅九月　　農學士太古散人識

草木實驗

盆栽仕立秘法目次

草木實驗 盆栽仕立秘法目次 畢

艸木實驗

盆栽仕立秘法

栢翁春郊著

一　盆栽の樂

盆栽とは何ぞや又植木とは何ぞや他なし一個の淺き小陶器に植込みて老木樹園の趣味を含めるもの之を盆栽といひ深く鉢內に植込みたるものを植木といふに外ならず抑も盆栽の趣味は單に最小樂事たるのみにあらず自然之に依りて最大なる希望を達するの研究ともなるべし唯だ之を朝夕室の內外に陳列して其珍を賞するのみにては平凡の人といふべし此小樂中にたゞ一種言ふべからざる妙味ありて心を樂しめ寸木の培養も自然に其生長發達の順序を自知し併せて草木の性質をも究め得るに足るべし先つ山川の大なる天造の密なる其造化の自然を尺盆寸土に縮めて自由に花を咲かせ實を結らせ之を室內に陳べ棚架に列ねて天地の化育を實視する如きは是れ盆栽の特色にして人性最も雅種多き遊伎といふべ

きなり
譬へは數丈の老木に擬したる尺にも足らざる欅あるかと見れは小寸にして蒼古千年を經たる如き松あり暗香浮動踈影狹斜たる梅の鉢植を見れは幽香の塵界を隔てたるを思想し樅の亭々たる杉の森々たるあれは白雲の梢頭を過ぎざるかと怪しまれ小松の叢生するを見ては其根に木の子の生ずるならんと評せらる此等事甚だ兒戯に等しき觀あれども一種生氣ある活寫眞にして又た有聲の繪畫といふも不可なきなり是此技術は彼の終日膝を屈し腦漿を絞りて勝負を爭ふ圍碁將棊の興よりも衞生上に一段の効益あるを見る圍碁等に勝つといふ快を得るも相手強くして運惡く敗を取れは面前には平氣を装ふと雖とも内心は躍起となりて不快を感ずること常の事なり時に狂亂して大事を忘れ所謂親の臨終に會はざる如き失策は往々免れざるの弊なるべし然るに盆栽の樂みは清雅にして興味深く身体の運動に適して精神を爽快になし老後にありては此盆栽こそ無上の樂事長壽の基礎といふべきなり愚老青年の頃より殊に盆栽を好みけるも光陰空しく青年時代を誤まるを知り其樂を棄てしも今や老齡に至りしを以て其樂しみを迎ひ

諸方を漫遊して盆栽家を訪問し遠所近所を厭はず盆栽を持廻りて苦しみしか苦み餘れば又元の樂に歸るの理にして數鉢の半數を庭前に出し其半數は寐床の邊りを取まかせ此を眺ながらにして自然眼の勞れると共に眠る程の樂を覺たり今其樂を世に好者に頒ちて茲に仕立秘訣をものする事のおかしさ此の冊子を讀の諸君笑給ふて咎めたまふな

二　盆栽并に鉢植物年度に於る流行棄り

○先古きは天保年度の昔咄より明治の今日迄を比較するに敢て大ひなる違ひなきと雖植込の体植鉢の形ちなどは尤流行り棄りの甚しきものにて其順序の豫めを左に印して參考の手助となす事なり

天保年度より安政頃迄の流行

鉢は圓形にて深し繰り形足付

木は松なれば銀生の五葉にて强て枝をためざるもの

鉢は圓形にて深し足同く染付
木は梅なればあまり古木を好まず
鉢は圓形にて深し底丸別足付染つけ
萬年青は大概此鉢を用ひし由なり
其他櫻海棠の類此の鉢を用ゆ若木を好しよしなり
此の年度には柑類を鉢植にせしよしなり
安政の頃より翠雀の鉢にて圓形別足附のもの流行せりと聞けり
此につれて萬年青も流行せりと云へり
其昔しより圓形にて共クリ形の足附にて錦手のものありしよしなるが此の年度より上物は伊萬燒の錦手のもののポツ〳〵流行しだしたるものと聞けり
蘭の種類も此頃より流行し始たりと聞けり
此頃に流行せし石菖鉢は圓形又は六角形のものへ砂栽となし水盤に水を入其中に入底穴より水を吸せたるなり
此頃より深鉢へ梅の古木を愛し初め次第に古木流行出して後には若木の根

方へ古木を添へ共木の如く見せたる安物を賣たり此を狐木と云へり
萬年青も此頃より頻に流行出したると聞けり
文久の頃より風蘭の大流行にて京都より四國中國などは中々の流行を窮め深山風蘭の上物裏亢龍などは京都の植木屋にて買入價段が一と芽其頃の金五兩にて客に賣付るには何程なるや大畧買入にて其高價なる事推して知るべし
此頃より慶應頃迄又々銀生の造り松少し流行りだし續て椿又は長春の如き花物も流行たり
明治の初年より淸樂稍流行始め此に伴れて赤松黑松ともに文人松とて天然の雅致有るものを好み初出したり
此頃より支那燒の鉢類稍々流行出し海鼠、交趾、紫泥、朱泥、砂泥、大ヒゞなどの類隨ふて用ひ始出したり併し此とても雅客にのみ有て俗人はあまり好まざりしなり
此頃より次第に文人流行となりて茉莉花を殊の外愛せるもの多きに到れり

佛手柑も續いて愛せるもの多し
石菖を水盤へ砂栽となすも此頃よりの流行にて殊に針屋、有栖川、の類を愛せり
薔薇も此の頃よりの流行にて第一流にはやり我先と愛し出したるは白黄此に次で美香登黄の司、泰山白それより引續き種々の薔薇渡來して後には數百種に及べり
蘭は此の頃の流行として金龍邊又は大明蘭、或は淸寒蘭などのものなるが中にも金龍邊の廣葉にて巾壹寸もあるものは殊に愛賞せるものなり
それより引續きて此等の種類に流行棄りありて今時の流行に及ぼしたるものなり併し前より著したるものは年度によりたる大畧にて其頃と雖も好事家は楓を愛するあれば又柘榴を培養せし人あり其昔しより楓の盆栽を培養し來りて今迄に二百年の星霜を經たるものあり此等は其家の子々、孫々愛賞者のみ傳りたるものと云べし
爰に近時の流行ものを擧れば大畧左の如し

松は上等品なれば愛藏者多し
杉は直幹の上物を尤愛するものにて仝栽込のものも愛する輩ら多し
玉杉も此に次ぎて流行せり
檜も又仝し
吐松なども尤愛藏者多し
眞栢は目下流行を來し随分世上に上物を見るに至れり
伊吹此等は流行する程にはあらず第二流のものなり
樅等は一流として愛者あるにはあらざれ共可なりのはやり物なり
欅は第一流の愛賞品にて我人共に此を競へり
柘榴は又右に等しく流行せり
楓は先此の三ッのものにて目下の三冬木かとも思はるゝ程のものなり
次にヱボタの如きもポツ〳〵愛藏するものあり
桑の木も珍ら敷ものは愛するものなきにはあらず
梅、牡丹の類は花もの好の輩は日を逐ふて流行せり

先眼目として視るべきものは此の邊のものにて其他好事家は書体草拂塵艸などの異りものを好めるもありし程にて今や日新に西洋花の入來るを悉く愛して遊快を貪り居れる輩もある事にて何も一体に云窮むる事は出來ざるものと云べきなり

三　盆栽と植木の優劣

○夫盆栽にもあれ鉢植にもあれ上等のものは何れも上等なり然れ共其種類を區別する時は各々成立を異にするものにて奇品と云もあれば名品として見るべき品もあり單に優等品とのみにて其資格を定むるものあり其他劣等のものをば一班の凡品となしてそれ〳〵の區別を立るの外なきものなり此は尤自分のみの辟論にはあらず各園主連何れも此の區別によりて其資格を定めたるものなり先上等品中にて天然の異体を來し奇妙と云ふの外なき軀幹枝葉を備へたるものを何と名稱すべきか此等をして奇品と云の外なきものにて人巧を盡して出來得たるものにもあらず自然異体をなし得たるものなれば人功金力にも二

品と得難き物の名稱なり名品とは何ぞや此は人巧と丹精とにて一ツの趣を顯はし雅致風韻を保つもの此等をして名品と云の外なきなり此の名品なるものは何程稀なるものにても人巧より成立たるものは再長の星霜を經るとせば仕立得の日あるべし又左なきも人巧にて出來得るものは近となく遠となく其道を求め拔得る時は稍相似たるもの出て來る事疑なし此は何程上等品にても奇品より下りて第二流のものなり優等品とは何ぞや天然物中に上下品あれば人巧品にも上下品あり惣般平均して此を撰擇し其秀たる物を採りて此を優等品と云此撰擇にかゝらざるものを劣等となすなり

附て云ふ此の種類によりて盆裡へ栽込の心得あるべきは其成立の趣を何處迄も汲斗て叛對とならざるやう盆裡の仕こなしをなすべし譬ば深山の谿間に星霜を經て奇木と迄に成たるものは盆裡にても幾分か其心をして栽込事を要するなり、人巧名品は人の手に成たるものにて身づから栽込相對の仕こなしも其木の釣合にまかせ直幹の一本立にもあれ又二本立にもあれ森林体に栽込ものにもあれ此等は何れも上野公園或は芝山内の公園などの木立の

趣根張及地盤の高低根方の凹凸苔むして自然の古色を帶たる有樣等を盆裡に寫して天然の模形を見ん事を心がくべし例ば木は一二流を位するものにもせよ盆裡へ栽込に其眞を失ないしものは一班の劣等に押下さる事あり悲しき事ならずや

四　苔の性質を區別し及盆中へ根を下させる法

○苔は一班にも地濕り自然の古びより生ずるの性質なれ共中には日に炎かれて濕り潤ふては日に輝されて生ずる苔もあるものなり又は腐木土に化さんとする際苔をむし出すもあり此等は青苔とて屋根又は土臺の腐れたる木より生ずる苔なりかゝるものは尤劣等のものにて此を其儘剝取て盆中の地盤へ張付るは誠に見苦しきもの若し此の種類を用ひんとするには此を細かに解きて砂に交てよく揉込其砂を假鉢の中に蒔蒔砂の中より苔の新芽を出したる時其つけんと思ふ盆中へ栽付べし苔中の尤愛すべきものは極細かなる花形の莖短かき

天鵞絨の如きものを最上とするなり此は其生ずる所赤土の上に黒地風の土質を以て掩ひたる木蔭の寺院等にて古びたる所に生ずるものなり全く花形の苔にて莖長く薹を生ずる大柄のものは赤土の木蔭にていと濕り多き處に生ずるものなれども此はあまり面白からず盆栽幷に植木鉢に栽込物柄により用ゆる事もあるべし又齒朶の形ちをなし地盤を這ある苔あり此は石苔にて多くは古き石墻などに盛れ居るものなり此もあまり上品にてはなきも青苔よりは宜敷かるべし此を盆中に張付んとするには苔を水につけ箸にて挾み地盤へ工合よく張付其上へ土と砂を交まんべんなく蒔苔の聊見得るようなし置雨に後あはす時は自然に味合付て古ひを出し早く根を下すものなり又苔足長き分は見苦きもの故延すぎたるものを鋏にてよく苔先を揃るをよしとす其他岩苔とて極めて細かなる岩茸やうのものにて先の方鼠の齒の如きものあり此等は木蔭の軒間にて日光の毎もさゝぬ所に生づるものにて劣等のものにて其用ゆる物柄によらざれば付ぬ方をよしとす又處によりて生づるものなるが花形の葩長く氈の如く盛れるものあり此等は中等に位するものにて大柄の盆栽には用ゆ

るも可なりのものなり殊に盆栽の地盤へあしらひとして必要のものは叡山苔なり此は極めて寒氣にいたみ安きものにて消がちのものなれば寒中は其上を柔らかなる藁やうなるものにて掩ひ寒氣に打たれざるやうになすべし此は其性質は地盤を這延る毎に細き小根を一本宛下すものなれば栽つける際は小根のいたまぬやう又小根一本毎に細き箸にて土をもておさへる事を要するなり叡山苔は寒氣の頃に到り日に當て置かば輝葉となりて淺き色の紅葉をなすものなり故に色は如何程紅くなるとも枯たるものにあらず云迄もなき事なれ共念の爲序ながらしるし置なり

又苔石に付んとするには其石の付べき個所へねばりある土を塗つけ其上へ苔水に浸し箸にて張付けべし張つけたる其周圍を土にてふせ押へ此を先假水盤の中へ入始終水の切れざるやうなし置べし併し付べき苔は成丈目の細かきものを撰みて付るをよしとす苔の質は石苔の極めて細かきものを張付るか或は花苔の莖短になるものを用ゆべし凡て苔は梅雨前より芽立をするもの故先舊暦の四月上旬頃より石につけ始むをよしとす左すれば梅雨の頃に到りて芽

立つと共に次第に石肌へも充分根を下し石に固く附きて後には自然に生へた

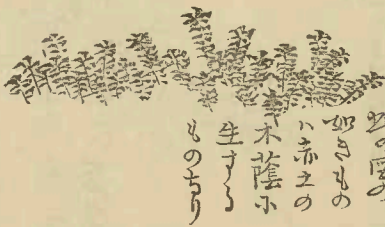
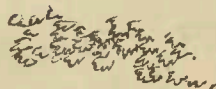
第一圖

青苔 又ハ屋根苔共

花苔の上質ふて茎短かきもの

砂に埋め芽立の図 後ふハ花苔ふ変ずるものあり

赤土苔 此の図の如きものハ赤土の木蔭ふ生ずるものちり

亂髪形の蔭苔

仝 岩茸ようの蔭苔あり

るものと違ひなき程に見らるゝものなり尤水吸あげの宜敷石は水盤へ附しま

ヽにても充分浸れ居るが故に根をろしをするなれども水吸揚悪敷き石は日に

第二圖

毛氈花苔

霞山苔

黴塵花苔の圖

二三度はジョーロにて灌水なし始終浸らし置事肝要なりとす

五　丹精と積年

○盆栽は一班にも丹精なり又如何程丹精を凝すとも數年或は數十年の星霜を經ざれば一ッとして見るべき品の出來得るものにあらず併し丹精をするには盆栽其品の中半成長したる處にて見込あるものを見立丹精を凝し年間を積一ッの名品となるものなり

六　保存と異變

○名品と稱せらるゝ品の其先形ちを失なはざるやう注意することは無論なるが成長して中半より名品となる迄は丹精と云ふ一ッの樂によりて成立つものなれば骨を折の樂苦心をするの遊快と云ふ此の二ッのものに引立てられて名品と云ふ極度に達する期に到るものにて此より先は誇の一點にて其形を失なはざるやうにするを手入と云ふ斯界に於る勤勞を怠るべからざる一ッの責任と

なるものなり

○丹精も保存も皆其品の質にあるものにて左に五六の參考圖として顯はしたるものは丹精の甲斐あり保存の功あるものを以てせしなり

例ば眞竹などを極淺の盆裡に栽込には中々の丹精ものにて一ツの盆栽を作るには先親竹の根ごしらへをなしそれにて二三年鉢內にて養其親竹より笋を生させ此を其翌年になりて盆裡に移し先此にて漸一ツの盆栽となるものなり然るに竹は年間の短かきものにて正味眺となる年間は四年長くて五年なりされば丹精に終りて保存の苦樂共に備はらざるものなる故に世の盆栽家の所謂によれば一ツは丹精甲斐なき品二ツには竹程奢りの頂上なるものはなしとも云へり尤此等は至當の說と思はるべきなり

○水盤ものゝ內先此等をして丹精と保存とを全ふし優等品として社會の名品として又異品として毫も耻る處なき品なり彩花園の園主稍々青年の初より今年迄三十五年間丹精と保存とに心を凝らして愛し來れる品にて風致と云ひ古色と云ひ趣きに到る迄悉く備りたるものなれば此迄雅客來りて讓り受度旨を申

込けるが積年の丹精を思ひやり如何程金圓を投じて代んと云はるゝも此品斗

第三圖

彩花園武者立の楓

第四圖

楓框杉の水盤

此の水盤中の木は丹精の由縁あるものにて其詳細は左に記るせり

りはと憐て斷はり居る次第なり併し此の先々は如何あるや此迄憐みて放さゞるは尤の事なり

先づ三十余年の丹精を倦ず飽ずして凝し來らんには名品の出來る事疑なし故に此の先々何人を問はず木の筋を撰擇して右の如く丹精と保存とを全ふするならんには盆栽ものにあれ水盤ものにもあれ必名

品の出來得る事疑なきは論より證據なるべし

第五圖

吐松名品の甲

○第一圖の楓も根株の無疵根張の締り殊に武者立に立登りたるありさま尤美事なるものにて先名品の内に數へらるの一ッなり此の如き趣きのものは隨分有

第六圖

ものなれども何れも株に疵あるもの多くして名品と云ふに到らざるものなり第二の水盤前に記せし如くなり第五圖の吐松は實に見るべき品にて枝の垂れたる趣き幹の古色を帯たると云ひ風韻の味ひ吐松中の吐松にして枝幹ともに無疵なる

は最名品として恥ざるものなり

第七圖

參考品の内

杉

此の杉ハ直幹にて其丈僅尺に餘れるものなるが幹と云ひ枝振と云根張に到る迄大木の粧をなしたるものにて最直幹の松中名品の一ツに數へられたる品にて盆栽會にて賞美されし秀逸の物たり此ハ谷澤氏の愛蔵品なり

第六圖の吐松は三圖に比較して下れるものにて幹より枝に到る部分に古き折れ口のやう見得る所ろありて名品と云に

は乏しき處あり然るを爰に揚たるは優劣を示す迄の參考なれば見る人其心したまへかし

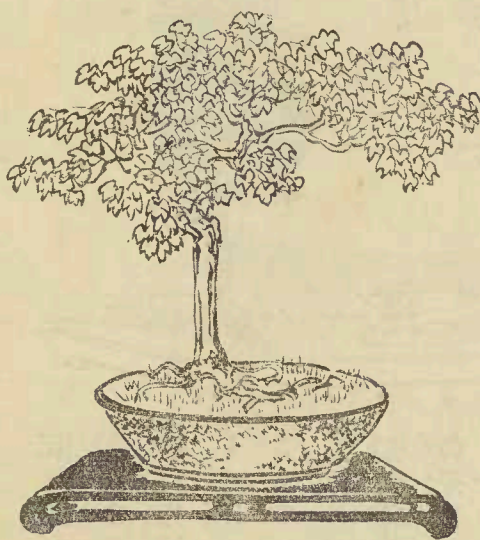
楓

先盆栽として楓として見るべきもの丶一ツなり尤是迄盆栽會に出品をなせし折も隨分人目を引賞美されしものにて根張と云枝指と云ひ此等は楓の參考品として耻ざるものと云べきなり

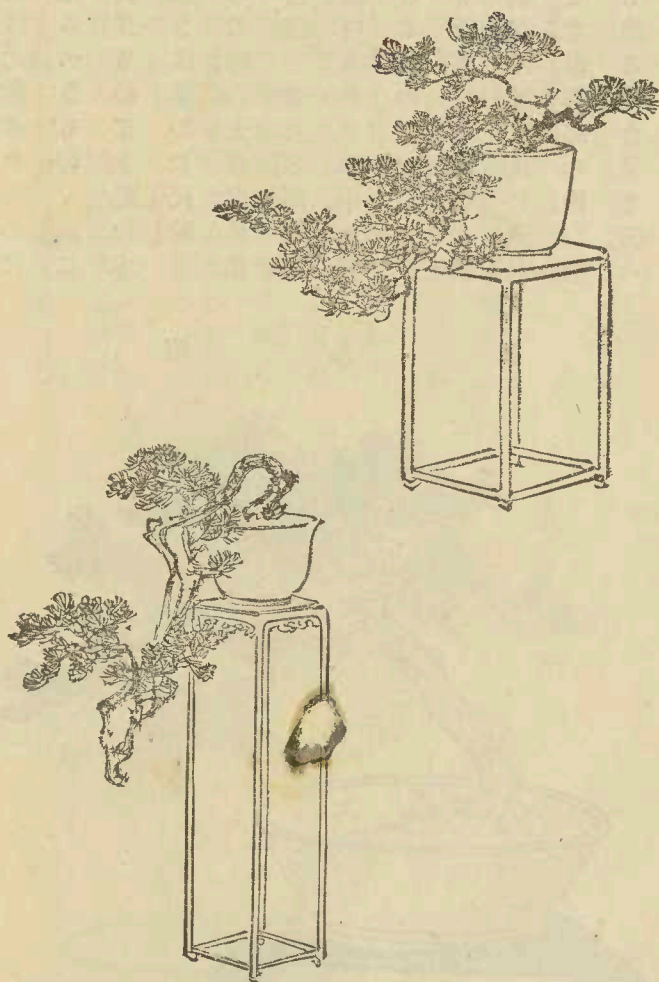
此も谷澤氏の愛品にて尤積年丹精を凝したるものなるべし

第八圖

參考品の内

吐松

吐松は尤數多きものにて見るべきもの丶誠に少なきものなり此の木の如きは僅かに尺餘りにして幹の太き事枝振の古色を帶たる事根張の面白味ある事中々見處ある品の一ッなり此品も斯道に有名なる熱心家谷澤禎三氏の藏品にて尤參考品の内に數へて然るべき品と云べし

第九圖

第十圖

懸崖參考二品

六　植料として撰擇すべき用土の事

○此迄種々の書類に於て土の區別しある所を見るに何も草木一班の目的にて盆栽第一流の奇品名品を栽の目的にあらざれば平等に土の性質をよく敎へたるもの丶如し此尤然り此の書においても土の性質を撰擇するを以該書の主眼に從するものと云に外なかるべし譬は土の木に對する人類の家屋の如く水の木に欠くべからざる人類の食物の如く肥料の木に對する人類の滋養及服藥の如くにして能此の理を解し植料を撰擇する事を勤むべし先第一に盆栽適用の土を撰書して一班の土と雖序ながらしるし置の主意なるが故に見る人其心して記憶したまへかし

赤土

赤土の性質は先山土なり此質に二種ありてさらりとしたるあり又粘り氣の有るもあり物によりては黑土か陰土を交せ極少なる荒木の根固めをして砂交の假仕立鉢へ植込なとには尤適したるものなり又都下にては上野屛風坂又は暗

闇坂邊の質のよき土なれば山土に黒土を含み又陰土も交ぢれるが如き極めて上等のものあり此等の土を参考とするもよからんと思へり

黒土

黒土の所在は古き竹藪などの長年葉落草枯腐りて地の下に埋れ變じて黒土となるものにて黒土の中此等を上等のものと云べし又原野の草深き所にて數年草枯腐りて黒土と變したるもの此等は竹藪より出るものに比しては第二の品にて少し赤みをさしたるものなり黒土は名の如く黒きが上に黒きを以最上等のものとす赤土に交ぜ用ゆる時は尤上等の栽料となるものなり

陰土

此性質として毎も濕りて冷たる者なり在個は山蔭を第一とし平素日の當らぬ木陰又は塀の蔭などのものを第二の品と云ふ軒下のものを第三に位する陰土と云此土の質なるものは惣般木類を栽るものにて併し木を栽る時は油糟を少し交て用ゆべし併木と雖松の類には山土を半量程も割り合せて栽れば差支なし左なくばわしヽ檜葉の類なれば寄塵砂を三分の一加へて栽るべし艸花もの

には悪しゝ何となれば日蔭に生ずるも同樣に花莖のび又葉の莖色白く花つき悪き上へに又花色あしくなるものなればよく／＼心得て宜敷かるべし

砂

砂は何土を用ゆるにも又何を栽るにも花物の外十中の七八分迄は少し宛加へて栽るをよしとす併し砂質は尤撰擇すべきものにてあまり荒きは悪しゝ又盲砂よりも少し荒き方にて白質のものより遙か下ると雖黒質のものにても用ゆべし赤きは尤宜敷からず千渡細か過るものなれ共流寄の奇芥と云質のものは最よし此の質のものは流に隨ひ河岸なぞへ自然寄あつまりたる鼠黒ろみあるものは砂中に何となく肥けを含めるものにて至極好品と云べし併河の上流のものに限る事にて海邊海近のものは甚悪し

附て云何程赤き砂なり共其木其砂に育ちたるものを栽るには其砂却て宜しきものにて此等は云迄もなき事なれ共序ながら念の爲にしるし置べし

先此四品の土砂を程よく配合して用ゆれば木類を栽るには其用をかゝざるものなり

忍土

此の土質に二種あり天然忍人造忍とあるものにて天然忍は山又は深林或は森の中などにて木の葉落て堆積し艸の葉枯て折重り自然年限を經て黒土の如くなりたるものを云なり此は大ひに肥げのあるものにて忍土の甲種なるものなり人造忍とは落葉又は艸の苅たるものを積立たるものか左なくば掃溜などの下づみなどにある土にて黒くなりたるものを人造忍と云此は乙種のものにて掃溜の下などのものは植ものによりてあまり宜敷からざるものなり

黄土

此の土は他の土と其性質大ひに異なるものにて黄樺色の堅き粘土なり是を日に晒し置荒碎きにして鉢底へ小石の代りに入置けば水抜宜敷しきものなり併し深鉢なれば宜敷も淺き盆には木の質により一概に用ひ難し又此を麥の挽割程に打碎篩にかけて荒し細かしのなきようにして砂を少し入山土を又交せ合せて蘭などを植るには至極宜敷ものなり土栽になし置く石菖も可なり宜敷ものなれ共蘇鐵の類には尤宜敷ものなり是は地下を三尺餘り掘下りたる處に

はあるものなれ共此は砂氣のなきものなり幾分砂けのあるものは四尺又は五尺斗りも堀下りたる所にあるものを最上の黄土と云ふものなり

けとふ土

此質は栽物の細工土なり山より出たるものを用ゆる事もあれ共其質重し本けとう土は極く輕きものにて稲株の數年田中の底に埋れて土と變じたる者を云ふなり此は石菖の類を栽付るには尤も宜敷品なり尚悉しきは石菖の部に詳細をしるせり

田土

田土とは池又は沼などの古くなり自然に埋れ居るか又は水通はずして乾たる部分を堀採充分篩にかけて小石を取除き朝良夕顔などを栽るに適せり又都下中にて田土質の上等のものは三味線堀の土に勝るものなしと云へり
先以上の土質を以て植木及盆栽の栽料として欠くべからざる品なり此外肥土三和土等あるのみなり

眞土

眞土は黑土のさらりとしたるものにて砂けなし砂けのあるものを砂眞地と云ふ此は植木には適せず地植のものゝみに用ゆべし何となれば乾きの早きものなれば水切安きものなり殊にあまり功なしと云へり

黑ぼく

此質は黑き岩石土の間だのものとも云べき品にて金槌にて打碎き篩に通極細かき處を用ゆるものなり此を中細にして黃土に交て用ゆるもよし尤蘭蘇鐵の類によしと云へり併し此等は其人々の流にて却て惡きと云人もあるべし又地方〳〵にて其土地の倣には蘭及蘇鐵を中荒の砂のみに栽る所もある程にて必一体するものにあらず

三和土

此は千渡混雜手數のものなれ共盆栽家として是非必要のものにて出來置かざるべからざるものなり

法

一野土　壹斗五升

一眞土　五升

此をよく〳〵混和し小石及小砂利塵芥などのなきよう篩にて通すべし

一下肥　五升

此を右の土によく交せ錬り合せて雨の當らぬ所に五六十日間程置此に糠のこがしたると思程煑たるものを切込又十四五日置て用ゆるをよしとす藁灰なれば其際に交せ合せて用ゆるも差支なし

此土は何木を植るにも少し宛加へて大ひに功あり艸ものを植るには尤よし

肥土

此は土質の何たるを撰はず普通のものにて土質の極宜敷ものを堀取り寒に入前より寒明迄に製するものにて此土に肥は下肥を灌ぎ寒氣に凍らせ寒中の天日に晒し乾くを見て下肥を灌ぐ事三度を先限りとなし其度毎に鍬にてよく切込三度灌ぎよく乾きて後俵菰の中へ結るか又は上よりよく掩ひ置かにして雨又は雪に濡ぬやうになし置春の彼岸になりて天日によく晒し數度切返し小石小砂利又は障害物のなきよう聊の草の根なり共取除く爲目の細まかき篩に通

して用ゆるなり併し三和土の如く肥土にてもそれのみを用ゆるは却て害あり適度に其栽べき土中へ加へて用ゆるをよしとするなり此土は木を栽るに少し割て用ゆるも害はなしと雖大功あるは草物の類なり尤菊などを造るには此土に寄芥砂を用ひて植るをよしとする程にて惣じて草物を植る爲に造れる人造肥土と心得て然るべしと云ふのみ

溝土

此は溝渟の土をさらへ揚げよく天日に晒し雨に打し一ヶ月斗り置て後又能く乾きたる時篩に通し小石砂利等を取除き仕舞置て此に野土を交せ艸物を植るに適料となるものなり

附て云ふ以上樣々の土類又用法等悉く書著したる事なれ共肥土の如きに到りては中々素人手に手安く出來難きものと云のみならず急場に出來へる事も成難くかゝる時は庭内の下勝手便利の掃除口前の土を削り取て此に山土なり野土なり適宜に混交して栽木すれば先急場變則の用には足るものなり又左なくも山土に野土などを混交して之に濠洲製の骨血原料の骨粉肥料を

混合せしめて植るも差支なし其割合は土の料壹升なれば半合の料にて交砂壹合を又混じてよくかき交此に栽るも差支なし
手短かに云時は松などを除くの外は何木なり共艸物に比較しては手安きものなり艸物は土の爲に其適不適を速に顯し見せるものなれば成丈注意すべきものなり
又木と雖花の付ものは艸物に近き感あるものにて土等の適不適は現在に花附の多少にて其返答を報ずるものと云も可なり
故に盆栽の熱心家たる輩は一切の土類は必ず備へ置て可然と思はるなり又一切を平素備へ置かざる共三和土又は肥土の如きもの耳にても心懸出來置べし山土野土の如きは用合せなき共何時掘採て用ゆるも差支なきものなれ只參考として念の爲かく悉敷誌し置たるなり

七　肥料の心得

○夫肥料は艸木共に植物の食料たるものにて野に山に有又森林庭園にありても

○葉落艸枯腐れるもの皆肥料となるものなり然るに盆栽鉢植何れも動物なれは籠中の鳥にて餌飼せざれば餓死するも同一なり只差ある處は艸木とも植物なるが故に水を與ふれば忽まち枯ざる丈の違あるのみなり然れども花咲實を結ぶ點に到りては艸木の餌食なる肥料を與へ置かざれば花咲ず結ばず枝葉のみを樂む常盤ものにても眺となるものにあらず左れば一々其質に適する處の肥料を施す事をつとめざるべからず

扨肥料は其種類多き事殆類別に苦程なれ共此は園藝としては用ゆるなれ共何れも必用のものにあらず盆栽は園藝中の一部分のものにて僅かに三四種類のものを用ゆるの外ならざるべからず去ながら肥料一班の名稱丈は序ながら爰に記して參考の一助となすべきなり

下肥

一下肥とは人糞にして何れも此の功なきもの百の五六なるものなれども盆栽として此を用ゆること難し如何に薄くして用ゆるも其當を得ざるものにて仕立床にある内は極薄きものゝよく腐らせたるものを用ゆるなれば大ひに功ある

ものなり

油滓

一先盆栽には油糟を用ひて功なきものは殆なき程のものなり其用法は壺にても土瓶にて其中へ水にて解きよく腐敗て薄きものを澆げば花は色をよくし葉は艶を持ものなり又一法は打碎たるものを根に指込置けば自然に解て肥となるものなり

骨血原料動物肥料

一此は濠洲の製品にして羊の骨血を細末にしたるものなり是を油滓と共に溶解させて用ゆるもよし粉のまゝにて根に入るも大ひに功あるものなり併し多量は宜敷からず

酒糟

一此は藤に最功あり次に葡萄の如きものにもよし藤は酒氣を好くものにて花咲し時朝花房より一二寸も明て猪口に酒を盛置けば夕迄に紳て酒中に達すると云ふ程のものなり用法は籾糠に糟を煉込置施す前に薄肥にて解根方に澆ぐべ

し又酒糟のみ根に入るもよし薄肥とは下肥の事なり

魚の洗汁

一此は朝良などに澆きてよし併し蔓及葉にかゝらぬやうにするをよしとす又薄肥と交て灌ぐもよし此薄肥は小便なるべし

米泔汁

一米泔汁は福壽艸、朝良又は花立花籔柑子萬兩、千兩等の類にのみ用ひてよし其他肥料の多き事前陳の如くなり然れ共あまり盆栽に用ゆる必用なし却て記るせし爲害となる如き事あるにより其名を算へ揚置のみ

馬糞　灰　水肥　魚肥　鯡肥　鰹節肥　鰮肥
厩肥　豚肥　糠肥　豆肥　茶滓肥　牛糞肥　牛乳肥
鳥糞肥　獸肥　淖肥　貝肥　烏賊肥　蛸肥

此の内誌し置べきものは貝肥にて蜆又は蛤にてもよく割合は貝殼二升をよくすりつぶし水一斗にて八升は煎結よく冷し貝殼を取り除三四日ねかし置て松の肥料とせは此上のものなし

乳肥

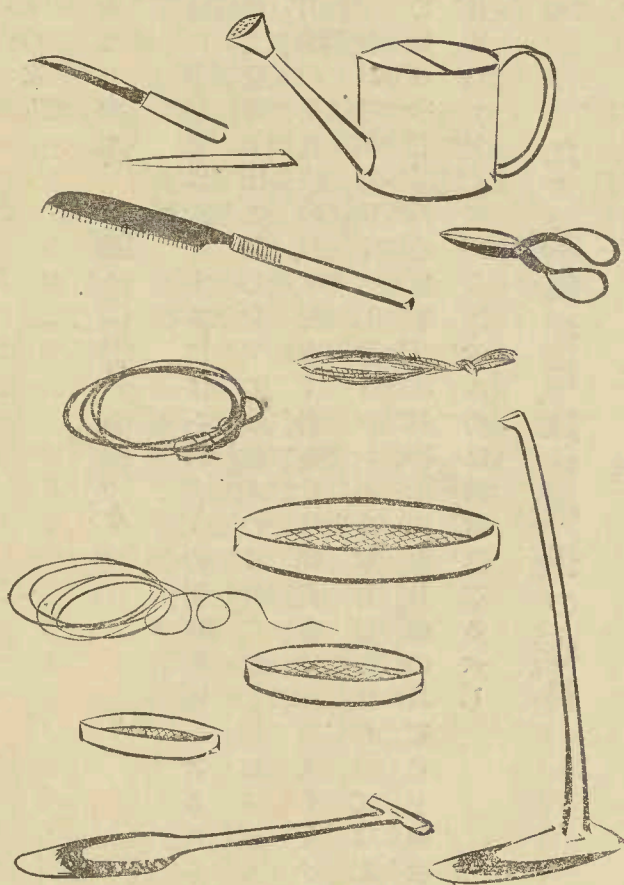
牛乳は花ものに妙なる事は欧米の咄しに聞処なるが此は例して其功あるを見たるものなり

八　盆栽用具の種々

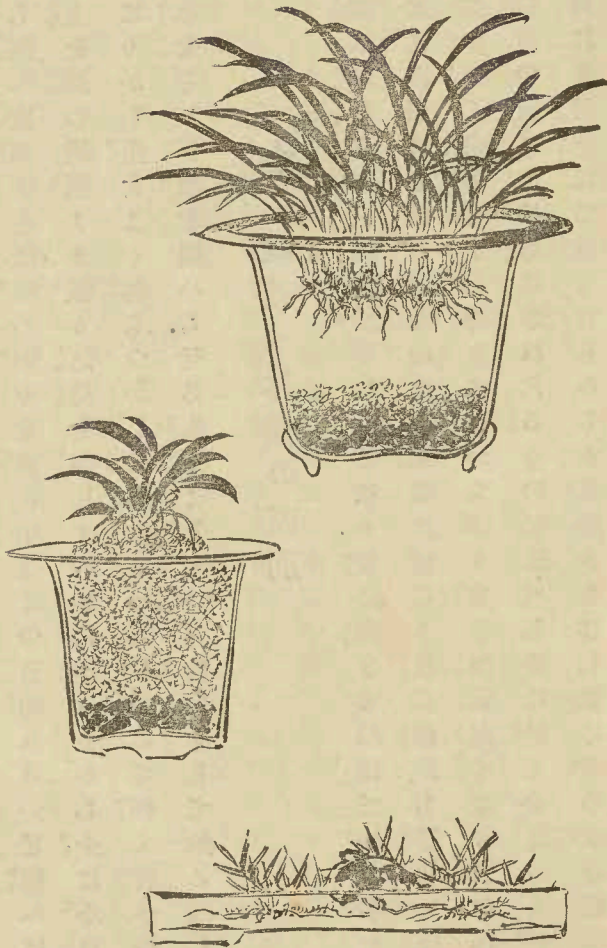
○先盆栽に手を下さんとするにはそれ〴〵の用具を備へざる可らず第一土を堀採の鍬土及砂を仕こなしをするの篩木の枝幷に根を切取る鋏及鋸枝などを削に小刀等の用具枝の振りを直す針金此は鐵針金の細きものをナマシ柔らかにして巻付ける用に供すべし又トタン針金なれば其儘用ひてよしナマス事は出來ずと知るべし其外心無筆又は羽箒此は塵及蜘の巣などを取去る用品なり就中用具として欠くべからざるものは灌水器なるべし

九　盆栽幷に鉢植物扱の心得となるべき事

第十一圖

○惣般植物をなすには土扱を心得ざるべからず此は盆栽仕立方の部につきて見る時は一々能く譯ることとなれども去ながら

皆それ〴〵の土砂底結の土砂炭等の豫めは圖の如き割合を以てする事なり

圖に見たる丈にても蘭は蘭の栽料割合あれば深山風蘭は又其品につきての栽

第十二圖

蘭の種類栽込土扱の圖

淺盆中竹類の根扱

風蘭水苔の扱

かたあり竹なれば竹にて栽方あり何れも皆其ものゝ性質をよく心得別ちて栽込べし例へば梅などは根の間々を棒にてよくつき固めるかと思へば其他のものは土を鉢の周圍より振り込鉢を手にて靜かに振うごかし土は小根の間々へよくとゞかし土をよく落ちつかして又ふるいこみ手にて輕く押へつけ灌水器にて水をそゝぎ根を濕めらせる迄をよしとす其他はをして知るべし

十　盆栽と鉢植の區別

○夫盆栽と鉢植の區別は讀で字の如くなり盆は淺きものにて栽の字を熟してうへるとよみ深きものに植るの文字此なればなり故に强がち器物に植たるもの一班に盆栽の名稱を下し難きは自から譯り安き事云迄もなき事なれども此が只云傚せの云來りに惑はされたるものと云べし爰に於て盆栽が貴か鉢植が貴きか何れも同一にて敢て貴もあらず又賤きもなし單に其の木の根の長くして大きく未だ充分太根を切棄る事の出來ざるものを鉢植となし少なくも二三年鉢馴をするか又二度斗り植替をしたるものを次第に切捨るも差支なき根を切

去根を低くして盆へ移すべし此を先づ仕立直しの盆栽と云へり尤實生のものは蒔立より淺き盆裡に芽立をさするが故に其盆に馴れ根淺く四方へ廣かりて育が故に自然盆栽に適するものゝ出來得るものと知るべし又手際と体裁を見るには仕立直しの盆栽に限るものにて淺き盆裡に太き根張りあり誠に見事なる根上りあり此等を尤手際と体裁とにあるものと云べし次に根を切つめ盆裡にて殘りの根を責土の加減灌水の注意肥料の工合等にて枝を隨意に延ばさず葉を長大にせしめず盆と枝と葉との釣合を取るを盆栽第一の心得と知るべし鉢植とても枝を隨意に延し葉を長大に且木質の儘に芳芽せしむるにはあらざれ共盆栽に比しては幾分注意の屆かざるも枯さゞる樣注意するを目的とするの最初新のものと雖持こなし能ふべきは鉢植なるべし併し木の性質により性質の上中下にも限らず盆栽適のものあり又鉢植適のものあり第一木なれば梅牡丹の類艸ものなれば蘭萬年青の類尤鉢植適のものなり然るを逐々梅をして根をつめ盆裡へ移したるものゝ出來得るに到るべし又艸木をつき交石楠藤蘇鐵椿、茶山花、天女花、百合、深山風蘭の如き何れも鉢植ものと知るべきなり故に盆

栽を貴ふにあらず鉢植を賤むに及ばず如何に上品質のものとても鉢植ものは鉢植物如何に下等品とても盆栽質のものは盆栽質のものにて上下品を論せず野生なれば喬木となるべき欅杉樅の如き左なくも楓、柘榴小物は山歸來或は錦絲南天石薄荷、雪柳、朱留の類、自然盆栽適のものと云べし、其他此の種類多きものにて逐一あげて數る事あたはざるものにて只盆栽と鉢植との區別を豫め爰に記し置迄に足るべし

十一　鉢植を盆栽に仕立置事

○山生野生のものを鉢に取りよく鉢馴をしたるの後盆に移し能べき木なれば先植替の期節に至り鉢より拔とり過半土を拂ひ落し立根及左右へはびこりたる太根を盆に合せて充分に切取小根則ち尤殘すべきは毛細根なり此の毛細根なるものは小根の尤細きものにて芳芽の頭は毛細根の先より白く根先へ芳芽の如くして根を張らしめ殊に水分を引て木の精氣を保ち肥料を吸集するは毛細根の先より引入るものなれば木の生息は毛細根作用の外なきを知るべきなり

併し毛細根とても次第に古小根となるもの故栽替の際は切棄て栽べきものなり此理は如何に毛細根なりとも年經るに隨ひ古根となりて水分等を吸集し得ざるものとなり却て害をなし木を枯す原と云べし木根殘棄は此の所にて述るにあらざるも豫め爰に印し置仕立直しの一助となしたるなり尚悉くは木根殘棄の部にて明細を記すべし

十二　植替幷に仕立直しの際木根殘棄の心得

○鉢植盆栽に限らず長くも二年起三年目に植替をなさゞれば一般にも枯を生ずるものと知るべし何となれば小根則ち毛細根次第に延長し且はびこり後は網の如くなりて鉢の肌に附着し如何に水を多料に灌ぐとも又肥料を施こすとも長き小根の先よりは吸集するの力乏しくなりて灌水は鉢及盆裡に溜りて次第に根腐らせる基となるべし故に植替の際は此等をよく注意し古小根と新ら敷毛細根を見分け是を殘し古小根を切取其木毎に植替適季に怠らずなし得るを

よしとす
仕立直しは前にも述し如く鉢植のものを盆裡に栽んとするには根長大にして栽込難きもの多し故に立根及太根を盆に合べき程に充分切棄尤太き根は鋸にて挽落すともかまはず古小根は去新毛細根にて根先に白芽をさしたるものは大切にして栽替適時に施術とせば必枯ものにあらず併土あつかひは尤此に對するものなれども栽料は其部に就て明良なるべし

十三　植盆幷に植木鉢の心得

○栽へ盆は成べく平たく淺きを好めり磁器陶器共に我邦の燒物を嫌ひ又賤しむにはあらざれども只風韻に乏き處あるが故に一班にも支那燒を好むに到れり何となれば風致は元來土質にをいても栽盆植鉢に充分適する處あるが故なればなり
先盆の種類を豫め爰にあらはさんには
白交趾　長方形極淺く低足

黄交趾　仝

青交趾　仝

白交趾　長方角切形極淺く別付低足

黄交趾　仝

青交趾　仝

白交趾　小判形極淺絡出し低足

黄交趾　仝

青交趾　仝

此の類にて淺手のものに楕圓形、メッパ形、胴張角切長方形其他形の異なるものあるも大同少異にして大差あるものにはあらざるなり

紫泥長方形　淺手のものにて小判形、楕圓形、メッパ形等あり何れも大同小異あり

朱泥　仝　淺手のものは何れも同様なり

烏泥　仝　仝

金窯物　十金とて青黄赤白黒其他桃色鸚鵡綠濱茄子色薄藍紅色等種々の色を燒たるものにて併しあまり色のさへたるがため目覺安くして鸚鵡綠色のものなどは强て面白からず去乍ら此の手には淺物あるものにて尤小判楕圓の類就中多し

海鼠　淺手の長方形　大形のもの　又中形までありて小形少なし

仝　淺手小判形　橋圓形　メッパ形先づ此等のものにて長手のものは此外大同小異なるべし

白高麗　淺手の長方小判等何れも是等の類なるべし

中深盆にては

白交趾　翡翠藥の中淺長角切又は長方形

仝　〃〃〃〃〃楕圓小判

梨子泥　木瓜式盆　長方形　茶葉菱花式盆　八角形

蕎麥泥　楕圓　小判　橋圓　圓形

先是等は淺手より中淺中深迄の物何れも栽盆として適用のものと知るべし

其中最も上等品として見るべきものは白高麗梨子泥極上品とも云ふべきものは古物にて蕎麥泥なるべし

植木鉢と雖支那焼は何れも栽盆と同様の物質より外に用ゆるものなし概畧支那の深鉢に植るものは蘭、薇薔、蘇鐵、深根の松其他懸崖物等なり

我國の陶磁器共に栽盆深鉢に限らず用ゆるものなきにあらず盆物は瀬戸焼の上物の水盤又は淺手の長方形大盆是等は杉、樅などの栽込森林ものに用ゆるなり

植木鉢の類となれば上等品として見るべきもの左に

古伊萬里深鉢

是等は蘭の種類を植込て最人々の愛玩する處なり

古薩摩　植木鉢

大柄のものは蘭小柄の物は深山風蘭其他石斛の類を植込ば尤妙なるものなり

古九谷

是等は植物の何たるを問はず又雅俗にかゝはらず大ひに妙味あるものなり

第十三圖

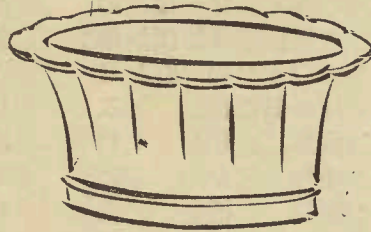
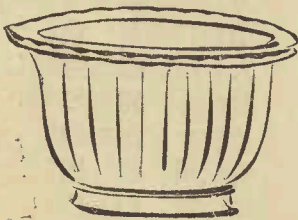
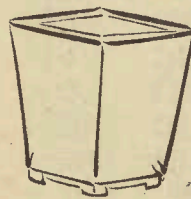
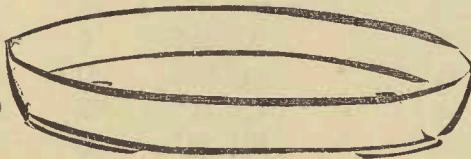
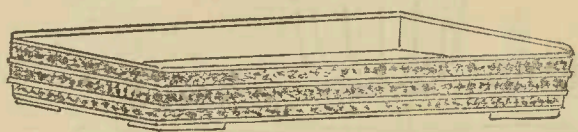
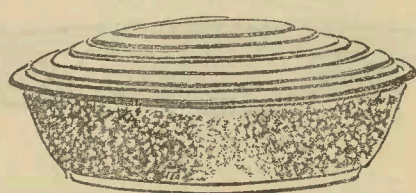
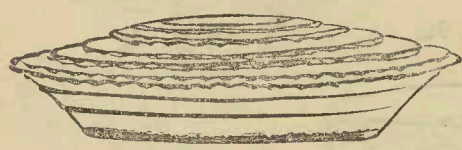
交趾

仝

仝

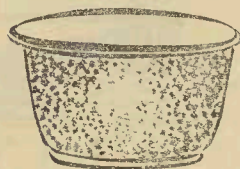
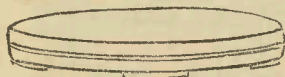
仝

紫泥

白交趾

是等は美麗のみに止るものにて尤俗受宜敷植物は就中蘭、萬年青の類に用ひて尤妙なり

樂燒淺手のものは又妙なる

處あり

第十五圖

深鉢は中柄より小物共萬年青用として出來たるものと云ふも敢て差支なき程のものなり

第十六圖

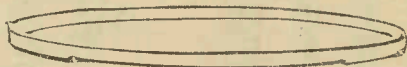
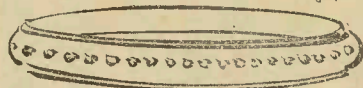
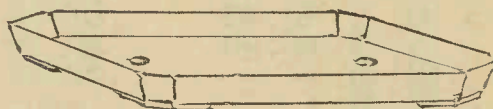
十金水盤

十金水盤

水盤

仝長角

鉄鉢

太鼓の胴水盤

交趾

其他鉢の種類にをいては上中下品共數るにいとまあらず愛觀せんが爲に植るあり又育つる爲に植込あり木の爲及育つる爲に植込には素燒ものに限るべし何となれ

ば素焼は水引のよきものにて根腐朽する患なし是に叛して磁器は水吐悪敷鉢中に水溜りて根ぐさりするのもとひなるべし

十四　盆幷に鉢に對する栽植料として用ゆべき土扱の事

○盆及鉢に陶磁器あり又素焼あり殊に志賀羅喜の如きあり育鉢となりては土泥鉢あり何れも此によりて水引のよしあしあるは論を待たざる所なり故に水引の宜敷盆鉢には土に砂を少量に割り水引悪しき盆鉢には砂を多量にして土を聊交せ合はするをよしとす是とても其植物の性質によるもの故概して土砂の増減は云難し土は質によると雖水乾き遲し砂は一班にも乾きの早きものなればば乾き過て木を枯す事なきと云ふにあらざれば大ひに注意すべき事ともなり併し自分は一班にも砂を多量に用ゆる事を好めるにより彩花園の園主云へる事ありそれも其人限りそれにてよし尤根ぐさりの患はなし併し灌水を怠り或は忘れなどする時は暑中などに忽ち枯る恐れあり必人々に進むべからずと云

へり此尤の事にて必人には進めず是は自分限りの辟にて砂のみに植て枯る恐れあるものを枯らさぬを快よしとすると云ひ物好と云はれし事あり植物の内にも竹の類は尤水を好めり又竹の中にて水竹、鳳凰、金剛、箱根寒竹、などの水に浸し置も差支なし却て喜ぶ程のものなるにより自分は水盤に砂栽として水を切らさず灌置事を好めり是等は何人もする事にて敢て辟栽と云ふにはあらざるなり此の部は鉢に對する土扱の心得のみを擧たるものにて逐一艸木に對する適土を述るにいとまあらざれば此は適土の部其外仕立ものゝ部につきて猶悉しきを見るべきなり

十五　盆栽并に鉢植應用植料となる可き土及砂混和等肥料の心得

○抑艸木に對する土砂なるものは須臾も離れざる事宛も車の兩輪にをけるが如く又魚の水も同樣なるは皆人の知る處なり假に水魚として比較する時は清水に住めるあり又濁水に住めるもあり海水に繁殖するの魚あるが如くにして艸

木とても此に等しく山土に生ずるあれば眞土に生ずるあり野土に生ずるあれば忍土に繁茂するあり蔭土に肥るあれば和合土に育あり黄土に根を全ふするあれば黒ぼくを喜ぶものあり砂地に生して根張するもあれば肥土に適するあり何れも艸木毎に其性質を異にするが故に聊のかはりあり又大なる違あるは自然的のものにて此に應用する處の植料肥料多少適する所なくんば其生を全ふする能はざるが爲爰に其心得として樹木のみの四五十種を揚る處なり他は此に比較せば必しも大差あるものにあらず艸物花物の類は艸花培養心得の部に顯しあるにより爰にしるさず

○松

赤松は山土に砂聊を交へて植、黒松は山土に眞土を三分の一交砂四分の一を交て植へるがよし（自分は割合に砂の量を増すの癖あり是等ば人毎に違あり）

肥料は油滓を水にて腐さらせたるを用ゆ人糞も聊はよし又聊なり共薄肥にして腐せたるものを用ゆ是を油滓に交るもよし併聊交るは宜敷きも多量は害あり松の葉枯をする時は蜆又はアサリ貝を二升生にて潰し水一斗

をば八升程に煎結是を根に灌くもよし全体に枯きみを顯したるには根へ蛸を埋るもよし自分は油滓に骨粉肥料を聊交るを好めり

○檜

山土のみにてもよし砂聊交るは猶よし山土眞土當分に砂三分の一を交れば殊に宜敷きなり自分は山土にても眞土にても砂と當分にて鉢に用るなり肥料は油滓に獸骨粉を少し交せて水にてとき腐らせて薄肥となし灌ぐをよしとす

○杉

山土に三分の一砂を加へよく交て用ゆべし肥料は檜同樣にして大ひに適するなり

○槇

此の種類は殊に多きものなるが太して地好をせざるものにて山土眞土砂を適宜に交てよし又眞土にのみ砂を交て植ゆるも差支なし肥料は檜の如くするも差支なきものなり

○吐松

此は二種あれども土は何れも同樣なり根は山土にて堅め是を眞土と砂とにて割植込てよし稍々砂の分量多く割るも差支なし肥料は槇同樣に見なしてよし

○伊吹

山土眞土當分に砂少交るもよし先檜同樣にして植るも更に差支なきものなり油滓の薄肥を折々灌ぐもよし聊下肥を極めて薄肥として共に溜壺に入よく〳〵腐らせて灌ぐべし骨粉肥料を聊交るもよし惣じて薄肥をよしとす

○檜葉

土はあまり好嫌なきものにて山土にても眞土にても差支なし何れも砂を交るをよしとす檜葉は尤種類の多きものなれ共何れも濕りを嫌ふものにてなりたけ土乾きよきよふになし與ふべきなり潤多く過又日當を好むか故に蔭に置時は下技次第に枯るものなり肥料は檜同樣に用ゆるをよしとす

○樅

山土に砂を交てよし又眞土を少し加へるも可なり併し山土に砂を加へたるものは乾よろしきが故に大ひに適す又根方へ蔭土或は忍土を入るもよし左すれ

は折〻檜葉同様の肥を聊宛與るもよし又根少々骨粉を散布するもよしとす

○榧

土幷に肥料共樅と同一にて少しも差支なし

○櫟

右同様にてもよし併し此の木は日當りをあまり好まず故に植る際少し忍土を交るをよしとす肥料は骨粉を散布する方よろしかるべし又骨粉に油滓の粉を交てまくも可な

○眞栢

山土壹升眞土壹升山川の砂三升の割合にて植るべし併し此當は人々の辟にて山土に眞土を交て植居るものあり自分は眞拍に大ひに力らを入るか故に眞栢の本場の植方を守りて栽るなり本場とは第一か伊豫の人不入山及讃岐出のものなり此の土地には木の根の山土にて固め山砂のみに植るなり自分も〻目下砂のみに栽置分あり肥料は油滓の腐らせなるものを折々根方に聊宛灌くべしあまり肥過れば葉幷化て見苦敷なるものなり

○欅
山土に眞土三分の一を加へて植るもよし砂聊を交せて植れば土乾よし肥料は油滓の腐らしたるを折々灌てよし又骨粉少量散布するもよし過度に施すは却て害あり

○梅
山土にても山土に眞土を交るもよし砂聊交るも差支なし肥料は油滓をよしとす尙詳細は盆栽仕立物の部に就て見る時は尤明瞭なるべし

○櫻
山土に野土を當分に交て植べし肥料は油滓を用ひてよし併しあまり多量に用ゆべからず

○柘榴
赤土に野土又は眞土を交るもよし肥料は油滓にてよし獸類肥料骨粉肥料は花を多く咲かせるにはよし實を結はせるには少しにても過量となる時は大ひなる害となりて一ツも結はさる事ありと云へり

○柳

眞土に野土を交てよし砂は交ぬ方をよしとす柳は濕りを好か故なり肥料は淳肥又油滓骨粉を交るもよし盆栽としてはあまり灌かぬをよしとす肥過るは醜くなりてあしゝ

○沙羅双樹

赤土に野土を用ゆ肥料は油滓のみにてもよしあまり過度は宜敷からず

○楓

山土にても眞土にても野土を少し交て植ゆるべし肥料は油滓にてよし

○海棠

土は楓に同し肥料も同様盆栽には骨粉を拆々少量散布するか尤宜敷は牛乳の器物洗汁を灌くは花を多く持せる第一なるべし

○南天

南天は惣じて眞土に野土砂少量を交るをよしとす肥料は茶がらを根に盛を第一の適當とするなり

○木蓮
土は南天同樣にてよし肥料は油滓にてよし骨粉も又然り

○木辛
木蓮に同し

○黃梅
三和土を用ゆるをよしとす肥料は下肥の極薄肥に油滓を少し交よく〱腐らせて折々灌くべし尤過度なる時は却て惡し

○蠟梅
想じて右同樣にて差支なし

○郁梅
眞土野土當分にてよし肥料は油滓の薄ごゑを折々灌ぐべし

○庭櫻
惣じて右に同じ

○金縷梅

右に同じ

○瑞香花

三和土に植てよし肥料下肥に油滓を交薄くして灌ぐをよしとす

○天女花

眞土に野土を交て植るをよしとす聊砂を交るもよし肥料は右同様にてよし折々骨粉を聊散布するをよしとす

○木瓜

右同様にてよし下肥の薄肥を折々灌ぐべし

○連翹

右に同じ

○茉莉花

三和土又は眞土野土の交合せに下肥したるものに植へてよし肥料油滓にて然り

○藤

赤土に野土を交るか又は眞土に野土を交下肥を施しよくねかし置たるものに植てよく肥料は酒糟に籾糠又は米糖にてもよしそれに骨粉肥料を交固め置薄き下肥にてとき〳〵根に灌くべし又秋の末に酒糟のみにても根方に入てよし藤の酒を好めるは其例しに花の下れる時花英の下に臺を置花より二寸斗も明猪口に酒を入花の先に臨ませ置時は其猪口に臨し花房のみ一日間にて花先酒に着ものと云へり

○牡丹

牡丹は土及肥料等に到る迄悉く草木盆栽仕立方の部に明かなるにより爰に悉くはしるさず只誌し置は油糟中荏の油滓を尤よしとす一班にも用方とするには荒打碎にして根の間に指込もの多し今一層粉にして根の間に埋込をよしとするなり

○夾竹桃

眞土に野土を交てよし肥料は油滓をよしとす

○賽珊胡

右に同じ

○山茶花

山土に野土を交たるをよしとす肥料は油糖を施せば葉艶よく花色濃くなり又花葩厚くなるの心持あるものなり下肥を灌げは花色薄くなり又葩も隨て薄くなるものなり

○茶山花

眞土に野土を混じてよし肥料は右に同じ

○木犀

土並に肥料共右に同じ併此は下肥の薄ものなれは差支なし

○狗骨

近來は矮少造り込で木つきのよきものを盆栽となしたるものをちらはら見受たり惡しきにはあらず此の木は強きものにていか程荒く取扱ふも根切をするも枯る事稀なり故に土も何質にても差支なし併し山土に眞土を交る位ひの處にて宜しかるべし

○黄楊

土及取扱等狗骨同樣に心得て可なり併し盆栽としてあまり用ひざるものなり何れも格別肥料は與へさるをよしとす狗骨及横楊なとは葉を細かにださせるを好むも肥料よくきゝて大ひなる葉を出すは見苦しきものなり

○縮緬つげ

土は上の如くにて差支なし肥料は油滓の薄きものを折々灌ぎてよし併し盆栽にして人々の好むものにあらず此の木は黄楊の名を附しあるも冬枯して春の末に芳芽するものゝ故木の性質を知らんは枯なるものと思それ切に棄置事あり心得のためしるし置ぬ

○桑

土は普通のものにて差支なし植替は葉の出ざる内は手荒に取扱ひて宜處ものなり肥料は油滓もよし併し藁灰を根にかけさるを尤よしとす近來好事家は桑の盆栽を眺る輩ある故にしるし置きたり

○衛矛

赤土に眞土を交てよし肥料は油滓を折々灌ぐをよしとす

○百日紅

眞土に山土を交るをよしとす肥料は油滓又は骨粉肥料もよし下肥は花の色に障る事ありあまりよろしからず

○佛手柑

赤土に少し砂を交るをよしとす尤砂は濱近のものは悪しゝ川の流れよりたる俗に云ふ奇芥と云ふ質のものに限るべし肥料は骨粉乾血の類にて就中濠州製のものなどを根に入るをよしとす併し實を結びてより二ケ月程はあまり與ふべからす時としては肥料の爲に實を落す事あり

○梧桐

赤土眞土の類なれば何れもかまひなし肥料は油滓の類にてよしあまり多量には與へざるかたをよしとす

○石楠花

山土に限るべし又眞正の山土になく共赤土なれは可なり肥料は油滓を少し宛

入るもよし根廻りの土を根に障らぬように取除き忍土を入るも至極よろしき肥料のものなり

○躑躅

肥土に植へよし又山出のものにても山土と肥土を交て植るをよしとす肥料は油滓もよし併し霧島又は青海の類は寒肥をなすべし此は根方へ澤山松の落葉を盛布て其上より小便の薄めたるものを二三度灌置べし膿きものを灌ぐは花の色に障りある事あるべし

○素馨

赤土黒土を交て植るか又は三和土に植るをよしとす肥料は油糟を水にとき腐らせたるものを灌ぎてよし

○櫨

赤土眞土を交て植るべし又赤土のみにても差支なし或は山土に忍土を交植るを自分は好べし肥料は骨粉を根に入るをよしとす

○緣齒朶

黑土に肥土を交て植るか又は忍土に植るべし肥料は油滓を用ひてよし

○銀杏

眞土に赤土を交植るをよしとす肥料は骨粉を用るをよしとす併多量は宜敷からず

○蘇鐵

赤土眞土に黄土を粹きて交植るをよしとす黄土はあまり細かにしては交る功なし黄土を交るは水のさばきよき爲めあるが故なり肥料根へ鐵粉を入るべし又枯かゝりたるものには根の裏より釘を打込べし他の肥料は用ひぬをよしとす

○樫

眞土にても黑土にても又は赤土にてもよし此等は左のみ八釜敷ものにあらず肥料も油滓又は骨粉の粉にてよしとす

○梔

此等も樫の如くあまり土を撰らまず同樣に心得てよし併朝鮮梔は少し砂を交

て植るもよし肥料は骨粉の如きもよし油滓もあしきにはあらす去乍あまり用ゆべからず朝鮮種は寒氣にいたみ安し

○芙蓉

肥土に眞土を交て植るをよしとす肥料は馬糞又は油糟を用ゆるもよし

○薔薇

薔薇は尤種類の多きものにて此に隨ひ土も少し宛て異なる所あり併し人に其の根には思はず故に概畧眞土に忍土を交ぜ寄芥砂を少し交て植るをよしとす務めて鉢の下方へは砂のあらきものを入水吐のよきようにすべし肥料は油糟に限るものなり

先概畧土及肥料等は如斯ものにて一々其木質による時は六ッか敷ものなるも素人の手にて植る時は土砂共に充分の自由を施こす事出來ざる場合多し只々砂に植べきものを之に植水を嫌ふものを不盤植となして枯死さるの不都合なき樣心得植込を肝要となすべし

十六　盆栽樹木移植の心得

凡て草木は何の性質を問はす數度植更をなし鉢に馴過をさせざるをよしとす去ながら其木質により春植かへて宜敷ものを夏手をつけ夏植更をなすべきものも知らざるとせば反對事をなし終には枯木とするの恐れあるものなり故に余は成丈注意に注意を加へよく譯り安きを主として著はす旨意なる事なれば尤重複する所は必あるものと知るべきなり

松

此の種類は如何にもむつかしきものなり去ながら新木を野山又は濱邊より採りて假畑或は假鉢に栽込とも緑りの延かゝりし際に取あつかへば枯るゝもの少なし秋の更木は芽張り根張りの精分少なきが故に枯るゝもの多しと知るべし

鉢馴をしたるものなれば春は舊の三月頃になりて更に植るか又は九月頃より十月の中半なれば必ず枯ることなし暑中は手を附け方宜しかるべし

鉢に植込て三四年も其儘に置たる時は小根一面に張つめ鉢の内部へ糸をむだきたる如くなるもの故植更の際には糸の如くなりたるものを悉く鋏み取りて栽かへをなすべし此の心得あるものは決して古葉を落すなどの恐れなきものとしるべきなり

檜

此の種類もの春なれば三月頃秋なれば九月項より十月の中旬迄に植かへてよし此も同じく鉢に馴過となる時は却て枯を求ると云もかなり小根を鋏取り盆中へ植込をなさば忽ち斯芽を吹出すものなり又悪しき芽は出しだいに爪にて摘取りをなすべし

杉

是も同く盆のはだへ附着したる小根切去りは右同様にて植替の期は二月の下旬より三月の中旬迄をよしとす

槙

古き小根切取は何れも同様植替の期節は新芽の出かゝるを見てするをよしと

す

吐松

此の種類は強きものにて舊二月の上旬より中旬迄に植替てよし古き小根を切取りて植替へれば枝垂ものなれば殊に芽立よく次第に延下るものなり

伊吹

古小根切取りて植替るは二月の下旬より三月の中旬迄をよしとす根に強ひて障はらず植替するとせば極く寒き頃を除くか極暑を除くの外差支なきものなり

檜葉

春は三月の上旬より植かへてよし方々は何れも同様其他伊吹に同じく取扱て差支なし

樅

春は二月の下旬より植かへてよし古根切去りは何れも同様秋は九月より十月迄をよしとす

榧

此の種類は樅同樣に取扱ひてよし栂の如きも右に同し

櫟

春秋共植替右同樣に心得て差支なし

眞栢

春は彼岸より梅雨頃迄を好時期とす秋は彼岸より十月の末迄差支なし古く鉢に栽込の儘置けるものは次第に葉枯をなし葉さき跡らになるものなりかゝる時は春の彼岸になり古き小根を切取栽替をなさば忽葉先より新芽を生じて茂るものなり

附て云ふ眞栢に限らず檜の類伊吹檜葉の質何れも葉の疎らになりたるもの此の法々を以て栽替をなさば忽精分の回復するは疑のなきものなり

欅

春は彼岸に入新芽のほころびぬ内に植替をなすべし秋は彼岸より寒さにかゝらぬ迄に植替てよし古小根切取は春の彼岸に限ると知るべし

梅

春は三月又は花散りて後なれば差支なし秋は九月より冬の差入迄はよし夏は枯るゝ恐あるが故に宜敷からず寒中も又悪し植替の扱法方は草木仕立方の部に詳なるにより爰に印さず又接木の傳は其部に就て見るべし

櫻

秋葉の落たる後より蕾の固き内迄植替をするものなり花を多く持せるには十月頃をよしとす植替法方は何れも大ひなるかはりなし

柘榴

春は復岸より葉の出ぬ内秋は彼岸より先三四十日間の内に植替てよし植替法方は何れも大差なし

柳

植替は春秋とも彼岸頃をよしとす夏期の植替は宜敷からす植方は何れも大した違なし

沙羅双樹

俗に云ふ夏椿にて春の彼岸か秋の彼岸に植替てよし葉の出たる後は尤宜敷からす取扱法方は大した違なし

楓　春は彼岸より四五月即梅雨の頃迄秋は九月の末十月の末迄を植替の時期とす暑中又寒中は宜敷からず

海棠　春は彼岸前に植替てよし他の木とは千渡早きを好めり秋は彼岸よりの事倂し秋は春程によろしからず

南天　時期を嫌はず同時植替るも差支なし倂し植替の當時水を灌は葉を振ふものを先十四五日間日蔭に置追々水を少し宛灌ぎて根を濕らせる程をよろしとす

錦絲南天　敢て差したる違なし

木蓮　白木蓮　更紗蓮華

此の種類は凡て春は宜敷からず秋の彼岸に入て植替るを尤好時期とす

辛夷

植替法方は時期共に木蓮の種類と同一にして大ひなる違ひなきものなり

姫辛夷

普通の辛夷と同様に扱ひて差支なし

黄梅

植替は春の彼岸より四月中がよし遅くも梅雨迄のものなり其後は悪し

蠟梅

植替の期節は黄梅と大して違なし同様に心得てよし

郁李

植替は二月より三月中にするをよろしとす

庭櫻

右同様にて差支なし

金縷梅

植替は彼岸の頃を好時期とす

瑞香花

花散りて後植替るか又は秋の彼岸をよしとす

天女花

秋の彼岸より十月の末迄に植替をなすべし

木瓜

花の後植替るか又秋の彼岸にてよし

連翹

植替は秋の彼岸より十月中をよしとす春夏冬共宜敷からす

茉莉花

植替の時期は四五月に限るべし其他はあまりよろしからす

藤

春は彼岸より秋は彼岸後より十一月中うに植替葉並に花の顯れてよりは植替はなすべからず

牡丹

秋の彼岸に植替をなすべし鉢の底へ馬糞を入て植るもよし尤地植のものは地盤の上へ土を盛り植る際根の下へ馬糞を充分に入れ根を馬糞により押付て植込べし

夾竹桃

植替春秋の彼岸の頃をよしとす夏期も宜敷からざれども元來寒氣を厭もの故冬期は手をつけぬ方を尤よしとするなり

賽珊瑚

春は三月の末葉の出ぬ内秋は彼岸を植替の時李と定るなり秋は實に充分色つかざる内をよしとす

山茶花

俗に書椿は春季花時にて植替は宜敷からず六月より七月の上旬迄をよしとす

茶山花

此は椿に似たるものなれども花の時季冬なるか故に春の彼岸頃より梅雨迄の

植替となすべし

木犀

春は三月の末より四月五月の初迄秋は彼岸頃を植替の適當とするなり

佛手柑

植替は四五月の間になすべし千渡早めてなさんと思は春秋の彼岸頃にてもよし柑類は何れも同一に心得てよし

梧桐

春秋とゝに彼岸頃をよしとす葉の盛なる時季は宜しからず植替には充分根を切とも差支なきものなり

石楠花

此は北向の深山に多く生ずるもの故風通し宜くてあまり日の當らぬ處に置かざれば消ゆるものなり植替は四五月頃か又秋の始をよしとす

躑躅

尤ツゝヂは種類の多きもの故一樣ならすと雖も敢て大ひなる差のあるものに

あらず何れも春の彼岸過又秋とても其前後に植替るをよしとす併し香蓮躑躅などは葉並に蕾の見へぬ内は何時にても植替て差支なし

素馨

此等の葉は弱きものにて尤葉の出ぬ内又葉の落て後を植替時となすものなり

櫨

春は葉の出ぬ内秋は紅葉の前後を植替時となすものなり

緣歯朶

此も春秋共彼岸前後に植替をなすべし

銀杏

植替は寒中極暑を除くの外あまり妨けなしとあるなれども先春萌芽せぬ内又秋は葉の落てより植替或は盆に取なとするをよしと云ふ此は盆中へ移すに充分根切をして差支なし併小根は少し殘し置かすは枯なり植料は黒土にても赤土にてもかまいなし

蘇鐵

此の種類は植替の時季かまわずと雖冬の中半より春の彼岸迄は手を付べからす時としてはすくみ枯るゝ事あり殊に琉球はなを〳〵注意すべし

樫

ばべとも云ふ

樫に二種あり縮樫と云ふあり何れも春秋ともに彼岸より十一月の始迄植替に差支なし併し春は枝に充分鋏入ず共害なし秋は充分に鋏を入て植替をなすべし

梔

植替は春秋の彼岸をよしと雖春の方をよしとす何となれば秋植は寒中に痛みの出る事あり春植替は暑中に痛みの出る事なし若し出る事あるも少なしと知るべし

百日紅

此も寒中を除くの外何時植替をなすも差支なし併春秋二季の彼岸に植換るにしくはなし

芙蓉

此は花咲て後充分切込て植替をなすべし秋の植替は時として枯る事あり

衛矛

此は小柄に作り込盆に揚て愛するに足れり植替は春秋の彼岸をよしとす

薔薇

此の種類は如何にも多きものなれ共植替は何時も差支なきものなり併し充分切込て植替るをよしとす

十七　草花物培養心得

福壽草

此は信州より出るあり阿波より出るあり北海道より出るあり何れも皆それ〳〵の地名にして自然福壽草なるものに適する地なるべし如何に此を他の地殊に東京及近郡にて培養するとも充分と云ふにいたらず肥たるものは出來難し瘠たるものを生す併しなから植るとせは山土に忍ぶ土を交て栽込夏の中絶へず米のかし汁を灌又油滓を根に入るもよし

芍薬
此は普通のよき畑土をよく篩ひそれに忍土と馬糞を加へ九月末より十月中旬迄を限りとして植替又は根分をなすべし肥料は馬糞又は油粕を根に入てよし

水仙
植替又鉢に取るには八九月をよしとす培養方は暑中堀出して下肥の中に浸し石コロ又は石原の如きよく天日に焼つかしする事四五度に到りそれより肥土に植込怠らす水を灌くべしかくて花の持頃に到りて鉢に取るをよしとす

雪割草
此は寒き土地に生ずる草にて育てにくし土は眞土か黒ぼくのよく篩ひたるものへ鳥の糞又は油滓にても少し入三月の中旬に到り根分をして植込あまり焼つかぬやうに始終日向に置夏になりて折々白水を灌ぐべし

菫
西洋菫あり又本邦の野生ものあり何れも雪割草の植方にてよし

櫻草

此等は凡て雪割草菫同様に培養して差支なし併しあまり肥過る時は葉はこりとなりて花少さく咲くものなり根分植込は春秋の彼岸にするものなり

升麻

根分植替は九月頃になすべし赤土に砂を交油滓を肥料として宜しきものなり

瞿麥

眞土黒ぼく寄芥沙の三ッを合せ併し砂は小量にし此に下肥をかけ日に晒しあまり肥氣の力ら強からぬ迄になりたるものに秋の彼岸に根分をして植込をよしとす又種蒔をするも此土にてよし時期は八月頃に限るべし常の灌き肥料として白水又は魚の洗汁を施すべし

石竹

此も凡て瞿麥同様にて差支なし

剪春羅

此は山土と眞土とに砂を聊加へ春種を蒔けば翌年に至り花咲なり植かへ根分は花濟て後すぐにするをよしとす尤古根は取捨る事肥料は薄き下肥又魚の洗

汁にてもよし

剪粘羅

此も剪春羅同様に培して差支なし

射干

春の彼岸に根分をなすべし眞土に忍土を交て植替をするか此に砂聊加へるもよしとす

百合

最も百合は種類の多きものなれども何の種類によらず大畧同一の培養と見なして宜しきものなり

植込は春の彼岸にすべし種蒔のものは實生を秋の彼岸頃に取土の中へ埋置翌年の三月頃本植になすべし

植料は砂交りの眞土へ粃糠又は米糖を交せ貯置植込際に當り此に下肥を振りまき藁灰を是に加へて用ゆるをよしとす

藪風蘭

此は極めて面白き朽木枯木又宜敷ものは岩松の根にして是を鉢の内へ都合よく羽目込風蘭を棕梠の毛又は極細き鐵鉢金か或はトタン鉢金にて柔らかに結付け置けは自然に根を下して茂るものなり

深山風蘭

植料は水苔を用ゆ植替又は根分をするは春秋の彼岸にすべし其他は手を付べからず

最も風蘭中是等は上等品の上に位するものなり

蘭

最も蘭は種類の多きものなれども何蘭を問はず第一肥土を作るに肝要なり蘭は貝の汁を好むものなれども海中に住めるものは塩分を含めるにより却て害となる事あり故に田螺を碎き又炭の粉聊此に飴の煮汁を加へ五六日間も瓶の中に入雨のかゝらぬ土中へ埋置然る後螺の殼を取去り白砂のさらりとしたるものに山土を十分の三加へ右の汁をかき交て植料となすをよしとす若し田螺のなき時は蜆によく水をふかせて田螺に代用さす事あり

姫萱草
春三月頃根分植替するも差支なしと雖秋の彼岸頃植替れば翌年の花持よし植料は忍土に山土なり黒土なり當分に交植込べし

姫擬帽子
植替は春季も差支なきものなれども秋の彼岸にするをよしとす殊に鉢栽は秋にも限るべし栽料は黒土に忍土又は蔭土を當分に交て用ゆるをよしとす

小葵
植替は秋の彼岸なり植料は眞土と忍土を交て用ゆべし肥料は油滓の類をよしとす

秋海棠
植替は秋の彼岸植料は黒土と忍土を交て鉢へ栽込べし鉢は日蔭の濕地に置根方へ家の內の掃除塵を折々入れてよし一二度油滓を灌ぐべし

萩
植替は根を其儘にて栽込ならば春の彼岸にてもよし根分をするなれば秋の彼

岸にすべし植料は合土を用ゆ肥料は油滓を少し灌か雨前に小便の薄肥を施すもよし

桔梗

惣じて萩同様にて差支なし

女郎花

惣じて萩桔梗に同じ併し下等品ながら盆栽とするにはなるたけ肥過す又延ず充分に責て成丈小柄に作込べし故にあまり水を過度に灌がす日によくあて夕に到りて水を與ふべし

鐵線

植替は秋の彼岸に鉢へ栽込か又は蔓を歴條にして盆栽とすべし植料は山土に黒土を交下肥をかけ置此に植がよし折々酒糟を根に入てよしとす

夕皃

種蒔は春の彼岸なり植料は田土又は寒中堀揚の溝土を乾かし春になりて下肥をかけよく日に晒し是を篩ひ小石に砂利を取除き鉢に盛て蒔べし又種は蒔か

んとする際一夜酒にひたし置て土中へ埋込べし夕皃の種は朝皃に比すれば生難きものにて先半割生すれば餘程好結果のものなり

朝皃

種蒔は春の彼岸なり土は夕皃と同様なるを用ひ蒔床を作りて此に種を埋込鉢に取には同士にて團子にまるめ根をしかとかため是を鉢に移植すべし堅く締るの功用は花を大輪に咲せる理なり根はびこる時は蔓及花の精分を減ずるが故なり別肥料として用ゆるに及ばす溝の水又は米のかし汁など水の代りに灌ぎ又なりたけ日中は日にあて少し葉のしなびる程の所へ夕景になりて右のかしゝるを灌き與ふれば花大きく咲ものなり

雁來紅

種蒔は春の彼岸なり花壇物は植料を肥土に砂を少し交て種蒔をすべし鉢栽のものは鉢に右土を取て直か蒔にするをよしとす何となれば弱きものにて栽かへを嫌ものゝ故なり自然蒔床のものを移すとなれば二た葉より三葉目位のものを移すべし肥料は魚の洗汁又米のかし汁を灌ぐをよしとす

燕子花

杜若は田又は溝或は堀の如き所に繁茂するものなれ共只捨植になし置時は花少なく且小にして愛するに足らず故に眺とするには培養の一ッにあり此を植付るには田土又は溝の土を一反乾かし是は干鰛を細かに刻み込土と共によく砕て秋の彼岸に根分をして植つけるべし又盆の中に取丈をつめて花を咲せるには春の彼岸に再び中深の水盤へ栽込べしさすれば丈つまりて花大きく咲なり根に折節でまめ又は鰯の頭などをさして肥料となすをよしとす

花菖蒲

是も培養方杜若と大ひなる違ひなきものなれども地植池植の分は最早花咲かんとする前に到り下肥を二度ばかり施すべし鉢植は何處迄も干鰛肥にて追ふをよしとす

小杜若

此は土の用法肥料の如何燕子花の培養と少しもかわる事なし併し是は小なる程愛するもの又目先替りて随分面白きものなり

鷺宿

根分土肥料とも右に同し併し此は池植にするものはまれにて盆栽に限るべし春は芽の出たる時根分をするをよしとすと雖是は其年に花つき少にして又咲かぬ事あり秋の彼岸に根分をして栽込置時は翌年充分に花のつくものなり

つれ鷺

此も鷺宿と同種類のものなるにより一切同一に心得て少しも差支なし

水玉草

是等も鷺宿と惣じてかわる事なし

高麗蓮　俗に茶碗ばすと云ふ

右同様にて差支なし

梅ばち草

土は燕子花と同様なるも水は日頃取替て清潔になす方をよしとすなにとなればの小川の流れ又は清水のようなる所に生ずるものなればなり此等は水盤に取りてよく培養せば可なりの盆栽になるものなり

西湖の蘆
秋の彼岸に根分して栽込べし土は田土を用ゆ此等は水盤用として最上等の盆栽とするべし

河骨　高麗物
此等の何も秋の彼岸に根分をして栽込べし土は田土又は溝土を交て用ゆべし併上等品にはあらず先づ中等のものとして眺むべし

其他水草の類隨分あるものなれどもあまり盆栽として見るべきにあらず燕子花又は花菖蒲或は小杜若其外鷺宿の類水玉草の如き何れも好者の眺むべきにあらず只花物の眼に馴れたるものゝ好む品なるべし

又水盤類には稗まきの如きものあり此等は尤下等品なれと其作り方により中品にして眺めものとなるべし何として作るとなれば盤中へ田土と砂を入れ其中へ格合よき水盤石を置き是に翫物を添へて可成りの飾りものとなるものなり先水草は盆栽の上中下を問はず物の數として著し置くなり

十八　草木盆栽仕立方の事

○松

松は舊暦の八月頃か春季なれば三月の中旬頃より四月中旬迄を好時期とす去ながら春季よりは秋季をよしとする者もあり先松の生地に到り堀採らんと思ふ松を定め根の周圍を鍬にて堀廻し置春採るものは前年の秋鍬を入れ秋採るものは春鍬を入れ採り來る時殘らす根を切をよしとす又植込をする時根を鋏にて皮を上方たにのこし切去仮植の畑へ植取二ヶ年程は地にならすべし植附けて後下葉に枯を出すものは植つく驗しなり植込て二三ヶ月後に到り葉一面に白枯の有様を顯ものは附かざるものとしるべし

土は赤松なれば山土に適し黒松は山土又は眞土にても宜しきことは皆人の知ることなれども赤松にても黒松にても濱邊の砂地に生ずるものは其生地の砂を取り來るか又は似よりの沙に植込能く地に馴染て後盆裡に採る際山土又は山土と眞土とを交此に砂を三分の一加へて悉く掻まぜ栽込をよしとす其後再

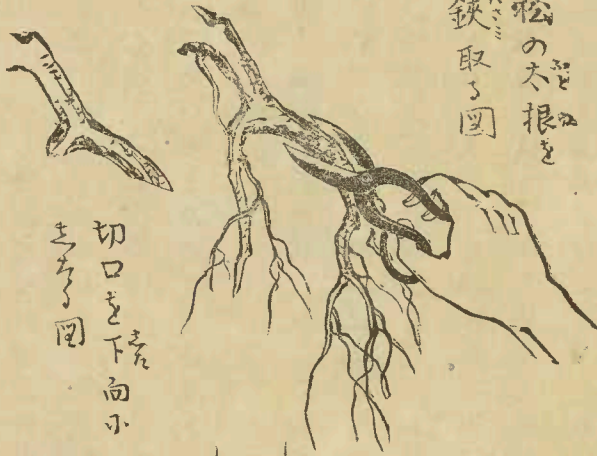
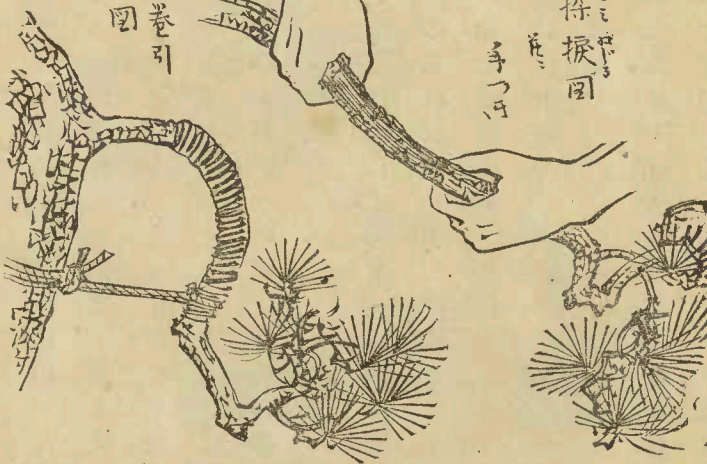
第十七圖

松の太根を鋏取る図

切口を下向にまする図

縄にて巻引つける図

枝を揉捩る図

手つけ

三の栽かへに到りては山土にても眞土を交て植るも差支なし
仮畑に植込て後の手宛として心得となすべき事は梅雨の頃に到り雨のかゝらざる樣注意すべしなんとなれば葉に雨のかゝる時は葉枯れ落るなり併し此は野生にて葉の短かきものにて葉を大切にするものに限る事なり山野にて葉の長く延びたるものにて新芽の緑りより出る葉を養ふて短かく育つるものは緑の延て後葉のいたまざるよう注意すること肝要なり栽かへの傳は盆栽の部分にて見るべし

○圖に示せる如く盆栽仕立につきては木の枝を曲叉は繩にて巻て引つける如きは尤第一の事なり殊に松の枝の如きは太きものなれば順に逆に揉ねじて柔らかに砕きて其上を細き棕梠繩のよりなるものにて巻意の如くに枝振を出來て仕立ることとなり先翌年の其頃迄其儘になし置けば其部分に肉廻りて皮肌の出來るもの故それより半年を經て其繩を取除くべし
植木となすにも盆栽とするにもそれ〳〵相應に太根を切去べきなるが尤無頓着に切棄べからず先切棄るには圖の如く切口を下向にして切事なり下向なれ

第十八圖

如斯形ちのもの
半懸崖にて
可なり
眺ハよき
ものなり
偖又此の体裁に造るもの
何れも癖あるものを丹精して
仕立るものなり
此の木の如きハ半懸崖と
云ふより本懸崖に
近し是の辺のもの
なれハ可なるべきか

ばヤニ出るとも直ちに土へ入て害とならざれども若し上向に切口をなさばヤニ其切口の上に溜りてたちまち木の枯るものなり他の木なり共切口を上向けにするは悪し、併し松程にはあらず

○松

夫盆栽としては先松の申分無ものを最主眼とする程のものなるが松程中品より下等品の多きものなきは皆人の知處なり何木を問はず何れも其出所により て優劣あるは云迄もなき事なれども松などは殊に寒風烈風に吹悩され數十年を經て稍く尺に餘る位のものを採得て植木畑に栽付よく馴じみたるものを盆裡に揚るものなり先關東附近にては茨城縣鹿島郡イキス村又は大田村近在の海岸にあるものを松の好地となし中國筋より出るものは姫路の松是は紅肌の女松にして一頃は殊の外賞美されしものなるか近時それ程に云ものなきに至れり四國にては讃岐高松の松是は男松多し併し中には女松なきにはあらず其他所々より良品は續々入込居る事なるが何れも上等品なれば敢て出る所を貴ぶと云ふにはあらざるべし

扨松の骨幹体軀枝容から論するとせば幹太くして倒れず徒に曲らず枝振片寄らず枝葉共に自から陰陽を備へ何處迄も締りよきものを貴とするものなるが迚も望み通りの充分なる品のあるべき筈のものにもあらず詮方なしに流行の望み自然に異りて松に至る迄懸崖ものを優等品とするに至れり併し懸崖ものは必優等の品のみと云ふにはあらざれ共其趣變体の極なるが故に何程異体のものにても眼先新らしきものなれば進んで此を取と云ふ勢に立至りたるものと云ふべし

然るに斯新論を口にするは時風を追ず流行に引かれず只々正なるものは正又曲れるものは曲る片するものは片と何れにも片寄らざる處の説なるべし

○眞栢

一斑にも眞栢として見る時は何れも眞栢なり尤眞栢に變りあるにはあらすと雖も幹の越き皮肌の有樣枝振の新古葉組のよしあし眞正の眞栢にて葉に狂の出ざるもの葉の込て短きもの葉延て踈なるもの又一本の枝より檜の如き葉出又檜葉のやうなる葉も出杉の如き葉を出すなと種々の葉に變り出る眞栢あり

第十九圖

此の盆ハある某氏の蔵品
なれバ敢て人に見せる事を好まず
但し此等ハ難得のなき
ものにて云ハゞ申分
なき木と云べし

先是程の物を
拵込むハ実生より
十五六年も立たるもし
木振のよきものたるより
取来人手にて丹精する
年限ハ十五年以上ハ経たる
ものなり

第二十圖

此圖ハ真栢を昨年
漫遊先より持帰りし
品の内なり是と云
見所ハちさきもの
なれとよく繁
茂して且締り
あると云迄の
ものなり
只真栢参考の
中へ加へて茲ニ顕したる
ものと云べし

尤此等は劣等の眞栢なれ共時の流行としては却而愛さるゝ事ありて現在神戸などにては此等を七化とか名附て殊に愛せらるゝに到れり乍去此皆時の流行にて長く行はるゝものにあらず矢張眞正の短葉をして眞栢の最も見るべきものと云べし圖に示せるは短葉の眞栢にて一流の盆栽として誇るべきものにはあらざるも參考として爰に揭くるものなり此は伊豫の國人不入山の產にて春郊自身彼の地に漫遊の折數鉢持歸りし內の一なり余は眞栢の產地に有りし時殊の外眞栢を愛し過せしにより人呼で栢翁と呼ありし中には惡る口交りに栢狂と呼此には自分も大ひに困り發狂と通音するか故に此れ斗りは斷りて笑れたる事あり眞栢は讃岐より出るものを本場の如く云傚はせる者多きなれ共自分は伊豫の人不入山のものを本場として愛するなり此の山は名稱の如く足踏込べくもあらぬ峨々たる高山にて毎々も風雨烈しく時としては暴風雨海面より直接に吹付られ幹蟠まりたる龍の如く小枝枯て龍の火炎の如くなり既に百年の星霜を經ると雖僅々尺餘に過ざるものあり他人は知らず自分は此の地のものを愛するは此の故を以てせしなり此人入らず山は巖石砂利砂など多く其

間に生したるものなるにより土地の植木屋一斑にも砂植にするを倣ひとなし居るにより自分歸京の際砂迄も彼の地のものを俵となし持歸りて此に植替をなし居る事なり眞栢も松も檜も盆栽は一斑三四年と植替に怠る時は葉に病を生するものにて松なれば古根盆肌に附着する時は下葉を振るひ又心に白粉を吹て枯ると等しく眞栢も盆肌に古根附着せば葉枯落て疎葉となり見苦くなるか故に遲くも三年目には古小根を切棄新らしき毛細根に注意して此を助け栽替をなすべし肥料は油滓を水にて解き腐らせて淡き物を時折根の廻りへ灌ぐべしあまり肥過る時は一斑の眞栢を見る如く葉延過て葉揃を害なふものなり左に掲ぐる三四の眞栢の盆栽は不入山にて風雨になやみ樣々の骨幹及枝振をなしたるものにて此も天然變体の盆栽參考圖として余の所藏品にも拘はらず眞の栢狂心として載置事なり

凡て栽木には自然に石に生たるものは差支なきものなれどもあとより石にからませるはあまりよきものにあらず石にからませたるものは尤幹の太り惡きものにて幹を太らせる望なきものにて形を其儘にて育ふと云ふ考へのものに

第二十一圖

栢公羽蔵

真栢

此ハ自分愛する處の蟠龍と号せる古木なり先年漫遊地の帰途ニ際し盆栽狂小野氏より餞別として贈られしもの而て今や百有余年の星霜を経しものと其地の好事家ハ賞し居たりしなり

第二十二圖

真栢

此も愛木の内
双龍と号する
ものにて根本より
二幹に別れて蟠(わだかまり)たる
ものなるが蟠龍に比して八
軀幹も小ぶり又木も
若し併し天然の形にて
一ツも人切をくはへたるものにあ
あらざるものなれバ愛玩に実に尊ぶべき事

頭ハすこし
處すべし

第二十三圖

真栢

此は自身愛木の
内にて白龍と号す
最も古幹にて霜雪
風雨を凌ぎて白骨の
如く晒されたるものなり
然れ共其丈尺余にして
伸ざる處を眺るかと
只古木の参考として
爰にのせし
ものなり

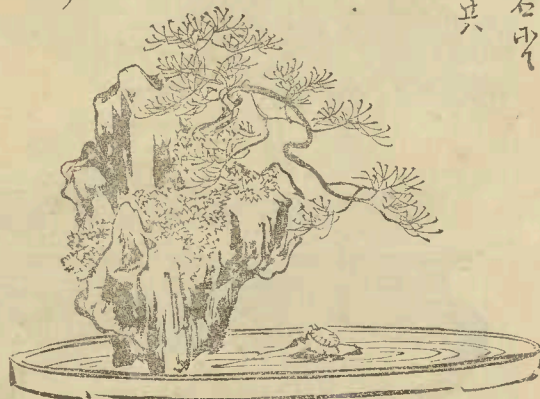
第二十四圖

真栢

此ハ自分儀最愛木中ノ
ある寒林と号する
古幹ありて丈け僅かに
尺余にして喬木の粧
ありて枯枝を
蓄へたる
変りもの
なるべし

栢翁春郊蔵品ノ内

第二十五圖

此の図ハ真柏の生地不入山の石にて
真柏の生したるまゝ蟠龍と共
餞別として貰受たる
水盤石あり石の丈七寸の
ものにて数百里の遠く
より持帰りし迄の
由縁を以て自分持ちだり
愛玩せり

限りて石栽にする事なり尤石に栽るには石に窪き穴ありて栽るは云ふ迄もなき事なれ共其穴下迄秡居るか又は石のはざまにて其間に根を狭ものなれば大

ひに都合よし此等は上より灌水するも水よく下へ秡けて根腐する恐れなし就中松は六ッかしくして初めにはつき安く後枯安く眞栢檜の類はつけば枯る事なし又水は何程灌とも枯ることなし其他石にからませて宜敷ものは吐松にして石ともに水盤へ放して水揚のよきよう注意すべきなり

○梅

梅の古木を盆裡に採らんとするには春散り方にて漸く芽の出んとする時堀取鉢に合だけに大根を切去り小根をいたまざる樣に殘し土をよく根の合々にすきまなく篩込小根のいたまぬように捧にてつき固め水をそゝぎて一ヶ月斗り日蔭に置をよしとす又秋季小鉢へとるには舊暦の九月の末より十月の中旬迄なり根の切去又栽込共春季も同樣なり何れも當分日蔭に置をよしとす
盆裡に栽込ある梅に花を多く着けんとするには栽替をなし古根を殘らす切去り枝はなりたけ鋏取りて新芽の立べき部分を枝毎に二ッ三ッ殘し置べし又栽かへをなすには土を細かに篩根の切口を鉢の底へしかと押付其篩ひたる土を根にすきまなく振込根のいたまぬよう捧にてつき固めなるたけ日の當らぬ

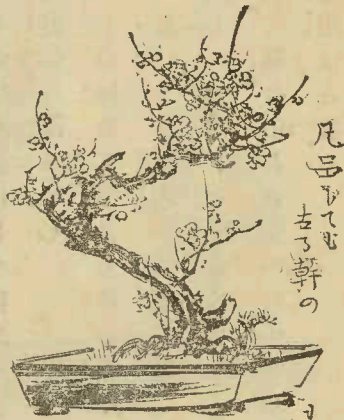
處に置そろ〳〵芽の延る頃に到りて割肥又は油滓を水にて解くさらしたるものを根に灌ぐべし

近頃西洋にて花卉に花を多く持たしむるには木の根に少しヅヽ牛乳を灌ぎて功ありと云事ありしを聞余か友人梅の盆栽なる根に毎朝嗜める牛乳の瓶がらに水を入れ此をよく振りて根に灌水代りにかけるもの二三人もありしが何れも其花の多く咲きしは實に驚く斗りなり殊に栽かへもなさず只枝さきを聊づみとり又花散りて後新芽のさきを摘採位ひなるべし

土は惣て眞土又は眞土に少し山土を入るもよし併し土の用ひ方は其土地々〵の倣ひにて黄土を細かに碎き砂少しを眞土に交せて栽るもあり余は黄土を交せれど少し砂を交せ栽るの癖あり何となれば水引のよきを主とするが故なり

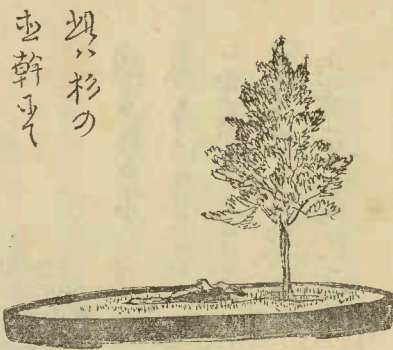
灌水の注意は春の末より梅雨の頃迄は根の乾くを見て日に一度宛灌ぐをよしとす梅雨の頃になりては濕りがちなるか故によく〳〵乾たる時灌べし暑中になりては朝夕に灌水して根の乾かぬようにするを肝要となす事なり

附て云ふ鉢はなるたけ小なるを用ひ根の割合に千度無理なる程をよしと

第二十六圖

す
又栽かへは若木なれば木の勢分強くして根の張も随てよきもの故年々古根を鋏みとりて移植る事なり古木は割合根の張少なきものなるが故に隔年に栽へかへても可なり其他異る所なし
又冬より春にかけてはなるたけ日當りをよしとす

○杉

一本立のものは小柄にして自から喬木の粧をなしたるものを貴重として愛するなり尤直幹に限るべし
盆は小判形の極めて淺きものに手際よく栽込又栽かたの体裁は圖の如く右によせ或に左によせ其木の枝振に傚ひ栽込て充分に位地をとるものなり
根張は成丈フンバリを充分に見せて根の締りよく栽込事尤肝要なり
添石は極て趣きのあるものにて又高底あるもの圖の如く成丈低くきもの又薄きものを用ゆるなり
杉は生來山生性質なるか故に山土に栽込をよしとす併し余は辟として聊か砂

第二十七圖

此ハ杉の直幹にて当時世の盆栽家ハ上等のものとすれバ大ひに好賞すべきものなり

此ハ杉の寄栽にて森圍の如きものハ面白味あり併し此等ハ一木栽として見られざるものを栽込ミにするなるものと知るべし

第二十八圖

此も杉の寄
栽なるの是らハ
一本栽とまても
見るヿを得べき
上等品の栽込なる
べし

此の図ハ杉林なり
盆ハ尺八寸もある
ものにてある長者
議員の蔵品
なるの中て
見頃の品
なるべし
併し此の
二品共瞭
玉松に近き趣き
あるべし

を交る事あり
杉の寄栽に數種あり一ッは亂脈なる林の如く栽込あり併し此は上品と云に到らず去ながら木つきに非凡なる所あるものは一体に云難し
一ッは直幹にて圖の如く木の大中小取交せ五本植にて林の如く栽込なり此も盆は極て淺きものを用ゆべし
添石は此も同く高低凹凸ある平たき石にて餘り地盤より多く出さず大石の聊地上に顯れたるもの丶如く埋込なり是等はあしらいとして大小二個の石を用ゆるをよしとす盆形は小判形のものに限るべし
森林体の栽込として見るべきものは圖の如く直幹ものにて木の大小取ませ三十本ないし三十五本斗りを極めて淺き長角のものに栽込か丶るものは根配を注意して体裁を作るべきものなり
此に對する添石は鴨川石か藤枝出のものにても形よきものにて高低あり且長手のものを圖の如く會釋尤此の分は一個に限るものと云ふも可なり

○玉杉

第二十九圖

此ハ二品とも玉杉にて敢て上品を云ふにはあらず又定べき点にもあらず只参考迄に真ハ形を図したるものなり

但し此の鉢浅きものハ年後根ニ痛ミを生ずることあり

玉杉ハ刻合着色の杉よりハ丈夫のものにて持よきものなれバ素人手にても存外心よき品となるべし

此も栽込の体裁大畧圖の如くにして中心より片寄たる所へ低石を胎ませ大中小の木を取交宛がら玉の轉べる如く栽込をよしとす是等は何れも極めて淺き長手の物に栽込て体裁を見るべし尤純粋の杉叉は玉杉にても淺鉢に栽んとするものは實生より二三年の頃にて淺きものに栽込立根の長く直立せぬように根こしらいを爲置再び本鉢に取を肝要とするなり玉杉は第二圖の如く小高き山の如く土を盛り芝生に笠の樣なる形ちをなさしめ石を側らに懐かせるも又一入なるべし

○吐松

一名榁とも云ふものにて此の質に二種あるべし一ッは唐松の如く杉の如く枝は普通受ざしにて圖の如く淺き平長角の盆裡に入て眺めとなすものなり此の種類は隨分葉を繁らせ枝葉共に愚延のせぬよう注意するを肝要となすべし今一種は枝垂榁にて宛ら翠柳の枝の地に向ひて垂るゝ有樣なり此の種類は思の外延の早きものにて四方へ糸の如く且鉢より下迄もさかるものを愛するなり尤木に留めるは何木を問はず嫌ふ事なれ共枝垂ものに至りては殊更に目に

第三十圖
吐松

第三十一圖

此ハ二た鉢共槽あり随分
流行ハするものなれ共あまり見る程の
ものにあらし中ニハ槽盆と間違て
沢山有ると
云ひ
居る
此事も
有る
ものなれ共
中にて
六ツケ敷
事あり

此等ハ見たる所にて
僅尺に足らぬ品にて
面白味あるものなり

立留あるものを劣等品となすものなり併し之は留なれ共充分古び付て却て眺となるものは此の限りにあらず凡て幹は成丈太く味あるもの殊に根張りのよきものを貴しとするなり

○檜

此の種類も随分上物又異体のものは至極面白きものにて世に愛せらるゝものなれ共尤それ等は少なきものなり故に此の圖の如きものをして一斑にも盆栽の中流に數へらるゝに至りたるなり

殊に檜の如きは極めて古木に見ゆるものにて精分のよきものを愛するなり一斑にも此等を栽るは眞土に山土を當分位のものなれども盆中水乾のよき事を好性質なるが故に自分にて栽るには砂を三分の一位は割りて用ゆるを癖とし居るなり併しあまり淺き盆にては水乾早きがゆへ暑中などは却て枯らす恐あるにより聊砂を交るか又繁忙の輩は灌水を忘れて枯らすやうなる事なきとも云難きにより砂は毫も交ぬをよしとすべし持手の何たるを問はず深鉢なれば砂を交て然るべし

第三十二圖

此ハ椴の盆栽にて先見處あるもの内ちり近頃好人多し但しあまりよきものハ少なし

同く椴の栽込にて芝の彩花園の主ら骨折て栽込たるものにて作て好の品なれハ自分の見たる中にて見事なるものにて有しならん

○椴

栽込大畧圖の如きもの多し一本栽の直幹のものにて見るべきものあらば此に越ものなしと雖も尤稀なり先皆無と云方近からんか故に二本栽又は平長角の浅きものへ栽込にするを一斑の倣とも見るべきか

何木に限らず芳芽する毎に枝の振を狂はせるものなるが就中椴は悪延をするものにて栽込の体裁も狂はせること甚しきか故に芳芽の際注意して延過ると見るべきものは悉く摘取べし

尤浅き平盤に栽るには根の深きものは栽難きものなれば實生の二年目位にて極浅き盆にて立根の延ざるやう培養するも尤肝要と心得べし盆栽として眺べき上盆に栽込は實生の年より六年目ぐらひのものなるべし

○柾

盆栽中冬木ものにては柾を第一の上品として愛するものなり何となれば幹小寸にして喬木の粧をなし小枝は充分につみて自から趣を備へ落葉後の眺とし て柾に勝ものなし此の故を以て一般にも柾を愛するに到りしものなり

第三十三圖

欅ハ冬枯を見るものにて
萬慮の模出程小枝の
積たるもの外木にあらざるものなり
是ハ直幹の表品なるの也
あまり世間に上物
なし是等ハ見るべき
ものにハあらず只欅の
模様を見る為の表品として
參考の爲置たり

併し當今柾中の柾と云ものなきは何れも盆栽家の歎息する所にして少しく見るべきものと思ふ木の裏面を見れば枝蔭に大ひなる鋏込の痕跡ありて此等は尤疵ものなり故に一本栽の直幹にて上品と云ものは更になしと云が如し先無疵にて奇栽又は栽込のものには一寸見つきのよきものあるにより人々それと知りつゝ此等を愛するに至りたるものなり尤云迄もなき事なれ共新芽の延立にて三葉程殘し芽先を爪にて摘取をよしとするなり

○楓

盆栽中楓の種類は最流行のものなるが其内懸崖ものをして位地を示居るなり何となれば楓として見るべきものゝ滿足したる枝幹を備へたるもの尤稀なるにより自然懸崖の極面白きものゝ位地を示すに至りたるものと云へり是等の説は誰一人と云ふにはあらず世の盆栽家たるもの及植木屋に至る迄此の言は免がれ難し尤此の道に樂輩にして又盆栽の仕立物の面白みを貪らんには木の筋のよき物を見立針金卷にして懸崖ものになすは至極妙味のあるものなり培養方は改て云迄もなき事なれ共楓の類はあまり水を好まぬものなれ共暑中水

第三十四圖

楓ハ思の外上等品を愛翫
せる人あり此ハ上等品と云こ
あらず只多くある形を圖
出て
表
品
造
題し
たる
ものなり
上へにある一鉢ハ上等の圖
園藝會の出品中にありたる
品あり人功を加へし所もあれ共面白き品なり

第三十五圖

柘榴も冬枯中
見る事を得べき
品の一ツなり
但しあまり
秀逸と
云ふ
程の品ニハ
あらずと雖
表品ノ一ツと
して爰ニ
戴せたり

を與へぬ譯にも行かざれば成丈日光にて能く炎つけ枝葉の日蔭延をさせぬやうにするを心かけべし

○柘榴

圖に示せる處のものは何れも柘榴の枝幹にして第一幹太く古び枝積て延びず次に根張り面白くふんばりをなし尤葉細かにして葉色艶よく培養するを心かけべし此等も一斑の木と同しくよく日炎して枝葉の延ざるやう仕立込を肝要とするなり又培養の心得とするには芽立の頃其芽先をよく見分花の胎むべきものを殘し其餘は新芽の內芽先を悉く摘取をよしとすかくて實を持たるならんには實の小なる內はなりたけ肥料を與へず少し大きくなりて施すべし又柘榴の實を持せたるものを主として盆栽となす時は稍々實を持たる枝に穴を明け水苔を通し又皮肌を削りて水苔にて厚く包み此に始終水を灌き乾かぬやうになし置切取て鉢に移すべし

○蘇鐵

圖に示せる如く根方より別〳〵となりてせり出したるものは俗に云ふ緣日物

第三十六圖

蘇鐵

此の品ハ上等のものにて最も琉球産のものなり其見所ハ根本一ツ本にて上へ登るに随ひ股を打葉も細かにて奇麗なり

蘇鐵ハ多く此の下等品にて根本より一ツ本毎に別れたると鱗肌の粗にして葉の荒き且ツ大ひなるものにて見るに足らざるものなり

とて此は内地生のものにて盆栽として眺むべきものにあらず只鉢植の一斑にて其部分に數へらるゝ迄のものなり此等は巨大に延し地植にするものと知るべし

根方一本にして枝打榮へ鱗小にしてよく積葉細かにして小なるものをして最上品とするなり此は琉球産のものにて蘇鐵として見るべきものは此の品と知るべし

中には植木屋のゴマカシ物を仕立るものありて此を狐植とて木の大なるものを中眞となし次第に周圍へ小なるものを寄せ合せ日に炎きて葉を細かに責琉球と見へるやう造り込皆無の素人をだますものあるよしなり

○錦絲南天

此の種類のものは尤上等のものにはあらず寒さの頃盆栽の數に入て眺となすものなり該品中にて上品とするものは幹細く根締よく數本よく揃ひ丈紳ざるものを愛するなり併し駄物のみ多くして上品は少なし先仕立方其心持にて持込べし

第三十七圖

錦絲南天

此の品の如きハ下等と云ふハあらず只凡ものゝ内にて斯と云ふ名品などハ出来ぬものにてあまりものゝ数に入へられぬやうに思ハれる鉢植なるべし

柘榴林

此等ハ上等品と云ふにハあらざれども只見たる處隠に愛嬌ありて優美なるものなり

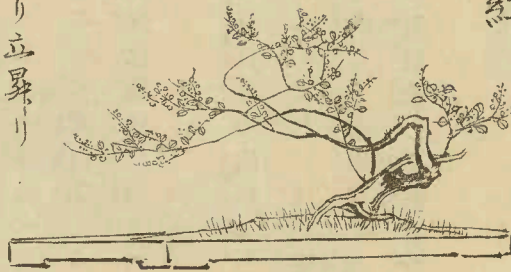
第三十八圖

百日紅（ひやくじつかう）

あまり立昇り たる形ちよりハ 一層此の辺がたもの宜しかるべし

寒珊瑚（うめもどき）

餘り此くらゐ品なし 僅しなるものハ稀なるものなり

○柘榴栽込

柘榴の栽込などは敢て面白きものにあらず又上品と云ふにもあらず隨分數多きものなれども只幹の紳ぬやう芽さきを爪にて摘取何れの木もあまり紳縮なきやう仕立てる事を心掛るべし此等は成丈盆の淺きものにて作り込添石も又低き方を用ゆるかた面白味あるものなり盆は長角の淺きものにても惡きにはあらず併小判又は楕圓形のものは一層見所あるものなり

○百日紅

先年頃は一入百日紅の流行なし居りしが當時は大ひに捨りたるものなり併し筋の通りたるものなれば流行棄にもかゝはらぬものなれども又あまり飛拔けたるものは見受たる事少なし先根張幹並に枝組等圖の如きものをよしとす又好者は古株の無疵物にて武者立に造り込たるものを好む姿なり

○養珊瑚

此等は劣等に近きものにて敢て爰に顯す程の價値なきものなれ共序なから印す程のものなり先圖の如きものはまゝあり此も仝じく枝幹よく太り小枝隨而

第三十九圖

豆蔓

此ハ石にからませたるもよし又盆中に這ハせて石を添置けば大ひに面白味あるものなり

棗

此木ハ古株を丹精したるものなれども世に愛する處のものハ実生より丹精して極つまりたるものに仕立たるものをよしとす

積み葉細かに仕立込たるものは其れとして眺めにならぬものにはあらす併し世間に何程面白き物を所持する輩あるやそれは知り得べからず

○豆蔓　又豆蔦とも云ふ

まめ蔓の盆栽なぞは極めて變則のものにて誰人も栽付居るものにあらず先年地方にてある好事家の道に樂過て苦むと云人石へ附て盆裡に入置しを見て余も又一入面白味を感じ何とかして豆蔓の至極面白きものを仕立んと心懸居る程の次第故參考として爰に掲しものなり

○桑

桑の盆栽は近來の流行にて好事家のぽつ〳〵愛藏する所となりしか此は何れも實生より仕立てたるものにあらざれば優等のものとなるものなし古株より芽ものは面白からす何となれば切込の大き事のみ眼に立好事家の持ものと云ふ品とはならざるものなり

○狗骨

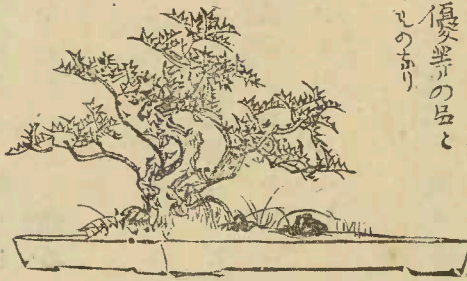
圖の如き枝幹を備へたるものか又は枝振よき懸崖のものなれば盆栽として隨

第四十圖

狗骨（ひいらぎ）

充分に丹精するものハ中〻面白味あり優等の品となるものあり

躑躅（つゝじ）

何程丹精するも優等品とハなり難し併し先年草津の盆栽會などに大なるハ秀逸に算へられたる品もありたる事なれば採求ハ云難き處もあるべし

分見らるゝものなり併し幹太り枝積み葉細かなるものに造り込又根の淺く切込て淺き盆中へ体裁よく栽込添石は加茂出のものにて極めて低き小なるものゝ面白きものをあしらふて然るべし

○躑躅の類栽込

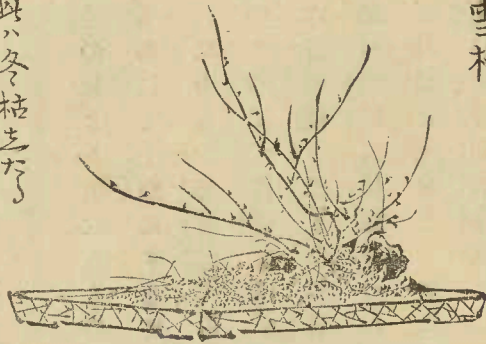
尤かゝるものは中流の盆栽なれ共先躑躅の類を栽込の盆栽となすには圖の如く仕立込をよしとす此等は木と木の間に石を据込何れも盆の淺きものへ造り込なり尤盆は成丈小判形を用ゆべし角長のものはなにとなく似合惡く如何にも面白味の薄きものなるべし

○雪柳

此等盆栽として中流迄に位するものにはあらず然れ共尚かゝるものを栽込の体裁にて充分見らるゝ物に仕立るも又一ツの妙味なり殊に此の類は冬木にて見る方宜敷ものにて相當の石を添へ　苔を盤地に盛して輝葉にしたるものも至極面白きものなり尤鉢は淺きものを好めり

○山歸來

第四十一圖

雪柳（ゆきやなぎ）

此ハ冬枯したる図ニして一層味あり依テ小鉢ニて愛すべき程のものニハあらず

山帰来（さんきらい）

此も仝じく小鉢ニて是と云品ニハあらず只栽込の体裁ニて見るもの丶一ッなり

此等は何れも小物にして上流のものにあらず併し栽込と体裁とにて落葉の後冬木として尙味あり枝幹細かにして一層の眺あり乍去圖の如く極めて淺き水盤物として根腐りの出來ざるやう注意殊に駄盆栽と見得ざるやうかゝるものは尙更盆の上等品を用ゆる事を肝要とするなり

○竹の類

水竹は元金明竹の類より出たるものならんか近來のものにて自分地方を漫遊の折持歸りしものにて土栽にするとも水盤に放し置も差支なきものなり併し上等品と云ふにはあらず參考迄にのせをきしものと知らるべし

金剛竹は細幹のものにて自儘に延す時は七八寸にもなるべきを充分責て造り込時は一寸五六分の矮少のものとなる事圖の如し此を淺き盆裡又は水盤に栽込には根を切結極淺根に仕立つべし先淺根に充分切込て枯らさぬようにするには今年舊の五月根を堀取り「ヘゴに植付其秋に到り裏より根を次第に切結翌年の四月五月迄に充分切棄淺根にして栽る時は隨分面白き小竹の盆栽となるものなり

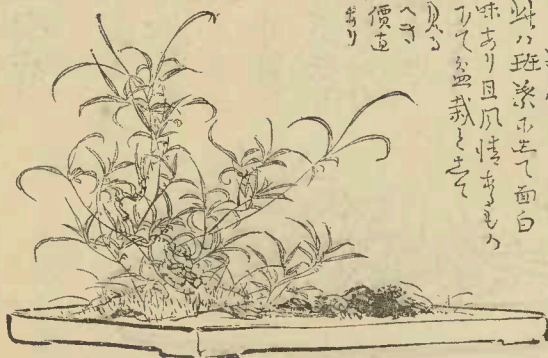
第四十二圖

第四十三圖

麒麟竹

盆栽として見るべき種のものにハあらず数の内に加へ置迄のものとみるべし併し第三流の輩ハ愛せり

鳳尾竹

此ハ斑条に出て面白味あり且風情あるものにて盆栽として見るべき価値あり

麒麟竹の如きは敢て圖する迄のものにもあらざれ共又棄る程の罪もなきものにて爰に印し置たるが先圖に示せる位のものに植込て宜處やに思はるべし鳳尾竹は麒麟竹に比しては面白味あるものなり併し圖に示せる如きものにて鞭根樣の幹立登りて枝葉細かに繁りたるは趣きありて自分は至極愛せり併し他人は知らずかゝるものは其人々の好嫌あるものなり
此の又人々の好嫌に任すの外なき事なれども先此等のものは成丈淺きものに栽添石をなして面白味を加へる方宜處しかるべし或は叡山苔の類を地盤に附るもよし又は砂栽にして石を添へ河原仕立に造り込小石を散らして浪花砂を蒔も一入面白味あるものなり

○深山生の風蘭（一切の肥料を灌げは却て害となるものなり）
此の種類は寒氣を嫌ふものにて寒中は水を聊葉及根にかゝらぬやうに灌きやるべし葉に水のかゝる時は春の彼岸になりて葉を振ふ事あるものなり栽料は水苔に限るものにて春秋の彼岸に新らしき水苔に栽替るをよしとす又梅雨頃になれば却て水を喜ぶものにて雨中栽木棚へ出し置方宜しかるべし併し夜中

第四十四圖

深山生風蘭
最優等品
裏尤龍

風蘭中ノ古今の名品ニて風蘭流行の頃ハ金銭を投ずるとも得難き程ありしと云へり

針葉獅々

深山生の内ニてハ可なり強きものあり

伊勢チヤボ

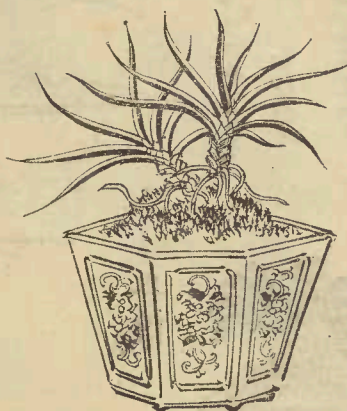
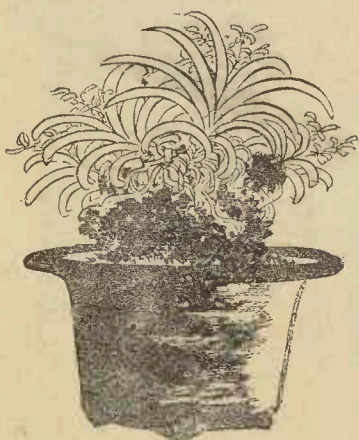
深山生中ニて花の咲あるハ此品のミなりと云へり

第四十五圖

都の錦

斑葉中一二を爭へられ居るものにて最上品なるものなり

大浪

葉積よく又葉色あさく至極面白き風情あり可成上等品なるべし

大鵬（たいはう）

圖の如き異りものあり

第四十六圖

淀の雪

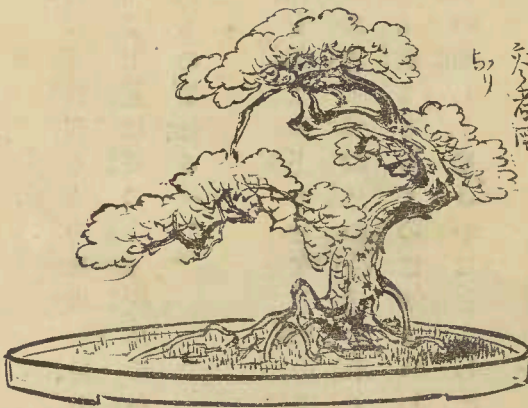
等級ハ斑葉中ニ都の錦ニ一階上ニ居るものなり然れ共都の錦よりハ長かし

藪風蘭

深山生比しては甚劣等のものなれども岩松の根ニ取付置バ花の多く咲ものあり

第四十七圖

真柏根上りものにて浅き、
盆裡へ毛細根を押へ止める
参考図となすべし

松の根上りを浅き盆へ
根押へを為する
参考図
あり

注意すべきは鼠の好くもの故あたらぬやうになし置事なり

○藪風蘭

此等はあまり賞美するものにあらず古木の朽たる樣なるものに根を針金にて押へ又取付るか又は岩松の根にからませるもよし是は花の多く咲もの故駄品にても搆はぬ輩は却て深山生より面白く思ふものと知るべし

○根上り物の參考

圖に示したるは七化眞栢にて自分の長く丹精を凝て根上りとなし聊の毛細根にて極淺の盆裡へ根留をしたるものにて仕立參考の爲栽込の位置を示す迄に掲げしものなり併し木每によりて聊か釣合の違ふ處もあるものと知るべし

此等は地盤の狹きもの故栽土にあまり凸凹の烈しくなきかたをよしとす

○根張の位置參考圖

松としては先圖の如き根張の根上りをよしとす隨分世に根上り松の異るものも往々見受るなれ共返て見苦しきものなり何となれば圖の如きは天然と見るものにてあまりトツヒものは無理から仕立たるものと云事の眼に立が故なる

第四十八圖

銀杏の実生

芽立の二年目ぐらいハ図の如く込合て位置をおせり四五年となりてハ此の図の二本枝位にすべし

櫨（ハゼ）の実生

芽立の三年目位のものハ図の如き込合にてよし五年六年となりてハ三分の一を残すべし

第四十九圖

松の実生
蒔立の二年目なり三四年となりて八半分を移すべし六七年となりて八三分の一を移すやうにしいるべし

槙の実生
蒔立の三年目八数の半分を移すべし五年目八三分の一を移してよし
凡そ移す分ハ栽替をするなり

べし

十九　實生林の盆栽

○右二三の圖は實生盆栽を示したるものにて當時はあまり流行するにはあらす其体裁と蒔立とをつぶさに述置迄の事なり

實生の蒔立は成丈淺き平盆を用ゆるをよしとす

實は秋の頃採りて直ちに土へ埋込置春の彼岸になりて蒔立の盆へ更に移して埋込それより水を絶へず灌ぎて乾かぬやうになし置けは入梅前には何れも芽立ものなり

併し實により早く芽立ものもあり又遲きもあるもの故遲きもあまり氣に留る迄の事はなきものと知るべし

銀杏は可成芽立のよきものなれ共水を切する時は芽立の惡しくなる事あり

櫨は如何にも芽立の惡敷ものにて殊によれば出ぬ事多き程のもの故寒中は床下へ埋込置春の彼岸過に蒔立の盆へ埋込水を切らさぬようになし置けば新暦

の四月中には芽立ものなり併芽揃の悪き時は他の盆に芽立たるものと寄せて栽る事あるべし

松は秋の末に實を殻より取りて日に干して後ち土へ埋込置春の彼岸になりて蒔立るをよしとす松は他の種に比しては芽立のよきものにて百粒は百粒芽立ものなり若し芽立揃悪しき物は栽替て揃ひを直すも宜處かるべし

槙も又他の實と同一にて格別の違なし

楓も實生の盆栽として隨分宜處ものなり併し松に比しては出の悪しきものなり楓の木の下に至れば澤山生じ居るもの故此を根いためせぬやう注意して持來れば實生を蒔立る迄の事はなきものと云べし

石に種々の名品ありて逐一擧るに暇あらざる事は世の人のよく推知せらるゝ處なるが元來盆栽に伴ふ石にて須臾も離るべからざるは云ふを持たさる處にして就中水盤用として愛し又陳列をなし種々の名稱して人々に誇り此尤無上の樂無欲の愉快と云ふの外なからんと信ずるなり故に此の篇に擧て社會の名石を吹聴せんとは思しかども中々數多に渡りて一朝一夕のものにあらざれば

第五十圖

此の三個の水盤石ハ何れも加茂川出にしてあまり上等と云ふ程にハあらざれども植添なしの石のミを見るに足れるものあり

此ハ某長者淺院の蔵品にて榛名山と名付けし品なるべし

此も同氏の蔵品なり比叡山と異名ある品なり

三品共砂を敷水を張る向なるもの

第五十一圖

此圖の如きハ磯石を据付後ろ方に小山の地盤を出来へ木ハ檜の如きものを植付るをよしとす又形ハ限らぬあたり写意あるべし

此圖の如きハ自然石の中心抜け穴のあるものにて水抜の有るものに限るべし此の仕向あるものハ水盤中へ水を溜置をよしとす

第五十二圖

此の圖の如き体裁ニ木を栽付るニハ水岩石類質の石ニて水を吸上るものニ限るべし
故ニ木を栽付るものハ水盤石とまて上等品ニハあらざるものなり
此圖の如きハ石と土とを境ニ立て栽込たるものニて盤中の水面部ハ浪砂を蒔て水を張ぬものなり

先二三の圖を參考として爰に顯し他日名石集を著す際必數百の名石を册子中に擧け充分の興味を供へる時あるべし併此の圖にあるもゝの如きは何れも加茂川石にて先中流の石と云べし

次に石類も示しある事なれ共此は石の如何を云ふにあらず單に石に附たる木又は竹、或は石菖の類を示しなどするの表品なり

一石菖を石に着るには先圖の如くするをよしとす併し眞石質のものは石に水吸あしきが故石菖を着るもあまり宜處ものにあらず併し窪き穴の深きものは其内へ根押込置けば自然に根を下ものなり

石に窪みなし聊の凹凸あるものに石菖を取付るには石へ揉錐にて小穴を明針金の先に突込鉛にて其處を止る事圖の如くにして石菖の根の上を押へるをよしとす殊に水の吸上げ宜處質の石なれば申分なし

けとふ土の乾かしたるものに鹿角苔を錬り合せ隨意に石形を造りよく干し固めて此に石菖を栽付又其他の處へは苔を付るべし是らは尤盆栽と云ふ程のものにはあらすと雖水をよく吸上るにより石菖は繁茂して性分はよくなるもの

第五十三圖

水巌石ニ石菖を栽付たる図

図の如くなしたるものを水盤へ放し置仕向ニあり

併し石菖ハ繁茂て宜し

其二

図の如く針金を石ニ付石菖の根を押入る仕組あり

其一

けとふ土を錬り人造となし石菖を植たる図

なり

二十　石に苔をつける法

○石にはそれ〴〵の質あり又出處ありて苔のつき安きあれば着難き質のものありつき安きものは分子の粗きものにて水含よきものに限るべし此等は粗末なる水盤の深きものに入日蔭に置けば自然につくものなり此を今少し早めてつけんとするには水盤中の水腐れたるを見て屋根苔を揉粹き粉にして充分振蒔置けば苔の粉は自然に石に着き日を逐て繁殖し後には變じて花苔となるものなり

又即席に苔を張り間に合せんとするには石苔の細なるものを剝し來り其張んとする部分へ鳥もちを塗りて張着べし併し体裁よく着ざれば不手際にて見苦しきもの丶出來る事故注意すべし

併し水盤中にて苔着を促すものは山間の瀧ざらしになりたるものに限るべし又左なくとも山石なれば苔の着安きものにて殊に森林の中にあるものは就中

着の早きものなり
凡て川石は苔着の悪きものあり又遅きものありて其内清水の流れにあるものは取分苔着あしきもの故鹿苔又はフノリを沸し此を石に充分布きて苗の細かきものゝ乾かしたるものを揉ほどき粉の如くにして隈なく振り蒔べしよく乾きて後濕り多き所に置折々水を灌きて干さぬやうになし置かば振蒔たる苔より自然に根を下して天然のものと見るべし

又一法には全じくフノリを石に布き其上へ鷄糞を細末となしよく篩にかけ充分に蒔をかば鷄糞腐れて苔と化するものなり此は鷄糞を蒔てより日に晒してよく乾きたる處へ水をかけ又日に晒し置けは自然に苔の生ずるものなり

右に著したるものは何れも素人手にて手輕にもあり又「キタナキ」事もなし單に樂且なぐさみとして苔付をするの方法なり

其道の手にて苔を促には何質の石を論せず人糞を灌き乾て後濕り多き處に置折節日に向て乾かして亦日蔭の濕り多所に置かば自然に上質の苔を生し見事なる苔着となるものなり

爰に一法あり右の人糞を灌く法よりは少しく劣るやうなれ共明樽又は大きなる鉢の中へ米耳汁を取をき此に灰を掻交せ置其中へ石を入置少し石に粘り氣の附し頃引出して日に晒し又元の如く米耳汁を灰の中に入置事三四度にして日に晒し其後は日蔭の濕りがちなる所に置かば自然に上質の苔をむすものなり如此して催苔するには石質を論せすと雖川石は尤遲し矢張谷川石に限りて早く着事受合なり海石は實に面白くなきものにて何人も苔着に骨折る輩はなきものなれ共若し洪水などにて流れ込みたるものなど引揚けたる中自然面白きものありて苔着せんとするには一度此を呼塩をなし又よく煎て塩氣なき迄になしたるものをそれ〴〵の法方にて苔着催苔等をなすべし塩氣ありては充分の促苔は出來ぬものなり又聊か苔は着とも盆栽の添へ石などになし置かば自然に木を枯すもとひなるべし

又添石となすのみなれば庭の木蔭なる苔の生じ居る所へ石の七分を顯し三分を土へ埋込置けば地盤に生せる苔自然に這上り石の少しにても窪き處へかぢり附て見事なる苔石となるものなり併し此は一ヶ年先苔つけに辛抱して翌年

にあらざれば盆裡へ揚げて眺とする事は難きものなり尤此を埋込には春の彼岸頃よりするをよしとす苔生の地處なき時は大ひなる鉢の中にても差支なし

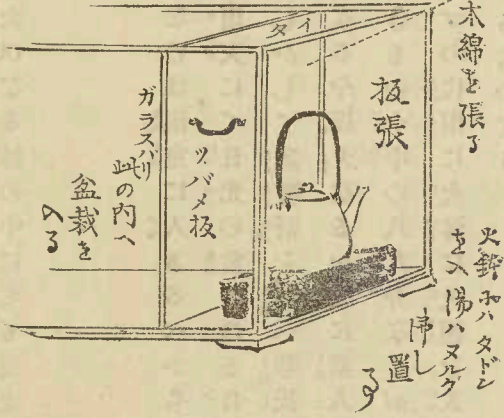
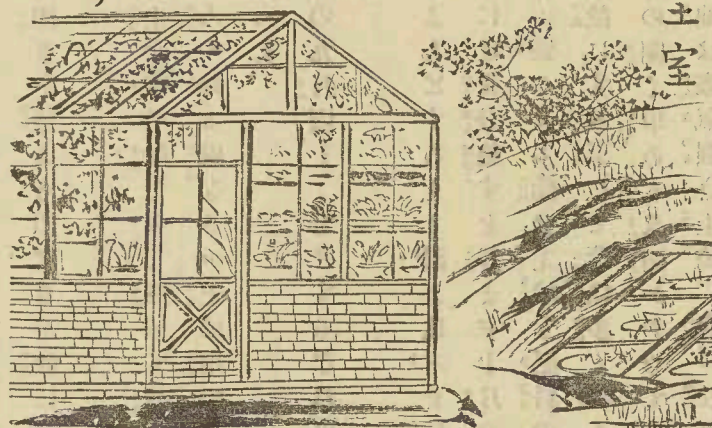
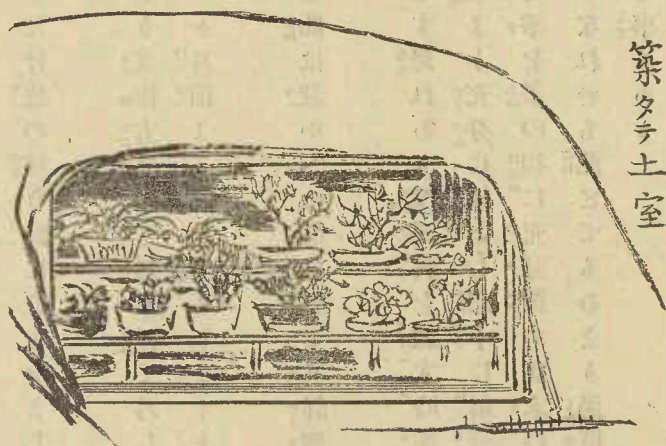
廿一　溫室の事

○寒中又は寒さの期にかゝり暖地に生ずる草木などは溫室に入ざるべからず溫室は「ガラス」張となして「スチーム、パイプ」を通し置雨天にて日光の當らざる日又夜中は「スチームパイプ」の爲に溫氣を取る事なりしかして寒暖計を備へ華氏の八十五度斗りとなし置をよしとす併し此の仕掛なるや廣大なるか故に素人手にて其實を盡す事能ず知りつゝ余所に見るが如きもの十中の八九分なるが故に先南向の小室を「ガラス」張となし「スチームパイプ」の代用に火鉢に炭團を入此に大土瓶をかけ此の湯氣にて溫度の助けを與へるものなり

此とても眞實の手輕と云ふに到らず大の困難物として作る心にならざる輩ら多し故に余は手輕なるものを作るにしかずと思付箱形の「ガラス」張に一ツの隠し處を備へ小火鉢に土瓶を掛湯氣を取此も全く寒暖計にて溫度を量り適宜に

其内(そのうへ)へ養(やしな)ふべきものを入置(いれおく)の仕掛(しかけ)なり

第五十四圖

軽便温度器

第五十五圖

○牡丹

牡丹は性質上濕りを嫌ふものなるか故になりたけ底の狹き鉢に栽るをよしとす

土は山土に眞土を交ぜ砂を少し加へて栽るなり又根方は高く栽る程よろしきものなるは皆人の知る處なるが土は用ゆる二ヶ月前より肥を施こしよく土をこなして栽込べし

栽かへは舊暦の九月頃をよしとするなれども此は栽かへの部に就て其詳細をしるべし

肥料は薄肥をよしとすあまり濃きは木を枯らす恐れあり又肥料を施す時季は一斑にも夏季には充分施すを好まず十月の末より充分に施こし寒中に馬糞の乾きたるを根に盛るなり此は尤然り肥料の時季を冬の初に充分施すは木のいたみ少なきか故にする事にて蕾は多く着ものなれども此とてもあまり過度に灌時は却て花の開く事あり又開かずして落る事もあり

元來牡丹の生地は寒氣强き土地に育つ性質のものなるが故に敢て寒中を恐れ

るものにわらず肥料も寒き頃施こすを好まず馬糞を根に盛ぐらいを充分の手宛としてよし夏季の内下肥の薄きもの又油滓の粉を折節根に入又水にてとき たるを少し宛根に灌ぐをよしとするなり尤大阪當りの植木師は概ね夏季に充分手宛をなすの倣なるべし又寒中は却て風によく晒し花の頃は天を蘆簾にて掩をなすべし殊に盆栽ものは梅雨の頃雨に當らぬよう注意をなし内に入置べし雨多くわたらば幹に虫つきて枯す恐れあり又花散りて後は若枝の三分一を残し切去るがよし翌年蕾を持ち安し鉢物は根に茶滓を盛もよろしかるべし其外培養仕立方に到りては土地の倣人々の辟あるものにて一様には云難し併し寒中覆ひをなさば花色悪しゝ寒風にさらす程花色宜しきと知るべし

○冬牡丹

此は舊暦の九月頃鉢に取ると雖其年の寒中に花を見る事能はざるものなり何となれば其翌年の春季に葉及蕾を持たるを悉く摘とり其後に薄肥を聊か施し普通培養に叛して四五月頃は根の廻りへ盛んに馬糞を根廻り與六月の末頃より七月八月頃迄に葉を遂々摘取ると同時に手やはらかに肥料を絕へず灌きて

よし併し多量に與へ過る時は却て害となり蕾は早く持とも開かずして落る事あり尤九月頃に到りて殘らす葉を摘取再び肥料を前に如く施すべし然る時は九月の末又は十月の頃に到り葉を芳芽し蕾を持ものなりそれより日當りよき所か室に入て根に水を灌ぐべし

廿二　植木棚の作場所幷に平素培養の心得

○植木棚はなりたけ日向りよき所を撰みて作るべし併し地所狹き場合にて止を得ざる時は一日の內先七時間日の當る所を撰みて作るか又左なくは日向に任せて持步べし風通しも肝要のものなり

又木蔭と云ふ程にはあらすとも棚の上に木の枝延び出たるは第一雨降の際木の葉を傳ふて落る木の葉の雫盆栽に垂れかゝり木の葉の「アク」にて忽まち木の勢分を惡くするものなり

又鉢植物の葉によごれの出來る杯皆此等の害なるものにて素人は心つかず木

露などに打たして木をいため日に燒事を怠り又たそれがため枝葉及莖迄も紳ばすの恐れあるものと知べし

又暑中灌水に怠り木を枯すなどは就中怠中の過なれども餘り灌水過て根を腐らせるも害中の害なるものなり

殊に冬木の中欅又は楓などは日當り少なき時は葉色を充分に出さず小枝及葉の莖悉紳して如何にも見苦敷ものなり

又此は植添の類にて八釜敷云程のものにはあらざれ共小物にて石薄荷などは取分日に燒上にも燒付ざれば忽ち悉紳して蔓の如くなるものなり

右の種類に叛して枝垂の吐松などは新芽の紳る内あまり日にあて過る時は紳惡し故に却て日蔭に置て俗に云ふ日蔭のびをさせ紳きりて後充分日に燒時は新芽よく堅まりて少しも害なきものなり

人の云ふ所によれば盆又は鉢の地盤へ厚き苔を盛らせ置かば水の乾き分らずして暑中枯らせる恐れあるなど云ものあれども左にあらず苔深きは却て水保ちよく盆中の木は毛細根の發育を助くるものあり

併し肥料の解たるものを苔の上より灌がば苔は色變じて枯たる如き根を一時顯すものなれば充分注意して苔にかゝらぬやうにするか又は苔を少し宛はがし油糟の粉を押込も宜敷しかるべし

鉢及盆は尚更不注意の爲暑中飛石の上などに置は尤害中の害にて日光にて石の燒たる火氣盆などの底より燒込時は忽ちにして枯る事あるべし

暑中日光に燒かれたる處へ日中灌水はなすべからず朝夕そゝぐをよしとす

併し寒さにかゝりてより春の彼岸頃迄は日中は日光の當り居る際灌水をなすべし

又怠たらず虫の小枝葉の莖間などに居るものを取除く事を勉むべし

蜘の絲を取るは尤怠らずなし得べきなれ共蜘がすみて絲を張るものなれば葉及小枝の間より逐出し片はじより取殺すをよしとす

又木によりて種々の枝ぶりわり今少し右側に繁茂を望むとか或は脊面に小枝を好とか云ふ時は其要部のみを日光に當て置かば其部分へ枝指をす

るものなり
木の性質によりて春の中半より秋の中半迄芳芽をなしをるもあり芽さしをして枝振を害ふ如きものは芳芽の際爪にて摘取るをよしとす
凡て枝垂もの又は蔓ものゝ外は常盤木冬格ものを問はずなりたけ伸びぬやう持込古木となすを勤むべし
木の性質により枝枯の出來て倘面白味を添へるものもある。なれは枯枝の爲めに風致を害ふものも隨分あるものなれば取分冬格ものは寒中烈風なとに當らぬやう窖に入るか又家の内の暖かなる處に置快晴の日に日光に合せて根本にかゝらぬやうになし灌水を聊宛施し土に濕りを持せ置をよしとす
年々持込の培養手當に到りては一々其木によりて異なる處あるものにて爰に述盡す事能はず去ながら其大要とする處の心得は前陳の如くなして大害は全く免れ且養の道を求むるの栞とするものなれは本部は此にて云はず他の部と比較して讀合せる時は逐一其實を求むるに安かるべし

廿三　草木虫類驅除法

○虫は草木土古根芥の類より生ずるものにて其草木每小虫の性質を異にするものなれば目先に見る虫のみにあらず土の間根の廻りなどに生又はひそみ木を植る際土に交りて虫の卵入込て時期を逐て生長するもあるものの故左にしるしある虫類區別を讀心得置をよしとす

土中の虫

一土中の虫類は第一根切虫を注意すべし大形のものは白鼠色の芋虫形にて丸く屈まり頭黑茶色をなしたるものにて艸物などは此虫鉢の中に居る時は忽根を喰切て枯すものあり小形の虫は鼠の糞大のものにて此植る際土に交りて入込生長するに隨ひ土脹上るを見て堀出し取去るべし此は世に云ふ芽切虫なれ共芽を喰よりは尙根に害するものなり盛んに生長するは梅雨前なり又前に陳たる大形のものはおもに暑中の土用前より生長するものなれ共何れも其前に石灰を水にて溶解し鉢內へ澆ぎ置けば死するなれ共長く灌ぎ置ては植物の害と

なるか故に翌日は必すよく眞水を灌ぎ鉢底の水抜穴よりよく通るよう幾度も水を灌ぐべし併し手荒く灌くは盆又は鉢中をいためて悪しゝ尤灌水器にて施すべし

木中に生する虫

此等は何れも木喰虫の類にて木の心を喰物となすものなれど是は盆栽類には敢て恐れなし皆無と云も可なり故に玆に陳るの必要もなし

木蝨

此の虫類に青色あり又灰色ありて蝨の如く又蟻の子の如く是を普通油蟲と云類にて艸木の新芽又若葉若枝を取まきて枯すものなり第一梅の新芽薔薇の新芽若枝などに着時は忽ち葉を枯し續いて若枝迄も枯に到れり先僅なる内は心なし筆の洗たるものにて拂落し鉢の中へ藁灰を散布すべし尤多く着たる時は鰻の骨を燒其煙にていぶすもよし又莨のふきがらを水にときて洗ふもよし此等は古へより仕來る法なるが余は「テレメン」油を筆につけ洗落せは木蝨は忽ち死するものなり一二時間を經て眞水にて跡を洗ひ置くべし

蘭蝨

其形平蜘の極めて少なる如きものにて葉の裏に付ものなり之を驅除するには魚の洗汁にて洗落すもよし一層蒟蒻をすりつぶし其汁にて洗落す法は増しなるべし

粉蟲　又は小蟲共云ふ

此は葉の裏一面に着くものにて僅かの内は水にて洗落すも宜敷きものなれ共心つかず漫延したる時はテレメンにて洗取をよしとす跡を水にてよく灌ぎ洗置くべし。

キラレ

此も蟲の一種なれども葉の病の如くにて蘭又は萬年青或は深山生の風蘭などに着くものなり是は眞書筆の先の固たるものにて靜かに削り落すべし

柑蚕蟲　普通橘蟲と云ふ

其形蠶に似て小さきものなり其性質柑類に生じて葉を喰物故佛手柑なども注意せされば蝶來りて卵を産付置たるものより生ずるものなれば見付次第取捨

又つぶすより外なし

毛蟲類

盆栽を愛するに毛蟲を生せさするなどのものにわらす又生ずる性質のものもなければ敢へ錄するの必要なし

蓑蟲

小枝を喰折巣を造る蟲なれ共是も同く記す迄の必要なし併し萬一枝に付居ればば取去りつぶすべし

蠹

此等も蓑蟲に類するものにて敢て錄する必要なし

着桑樹蟲

此の種類のものは盆栽たりとも注意に怠る時は着かずと云限なきにより記し置かんに先最初は葉を巻き糸を蜘の巣の如く張り葉の肉を喰筋のみを殘す害蟲にて僅かの內に取除かず捨置かば又翌年も生じついに枯すものなり併し盆栽を愛する輩かゝるものゝ生する迄見捨置ものにわらざれば敢て記るすの必

要もなきかと

蚯蚓

此は盆栽家として恐るべき害物なり盆又は鉢の中に蚯蚓上る時は水抜を妨け自然根を腐らせるもとゝなるか故に地上又地上近き處に置べからず若し鉢中に入時は「アクを澆ぐか又石灰の水を澆ぐもよし無患子の皮か又は肉頭冠を煎じ出したる汁を根に澆げば死すものなり何れも跡にて眞水をよく通して洗はざる時は害となるものなり

此外害蟲は數多きものなれ共盆栽として一々記す必要なし去ながら菊虎なども害なしとは盆栽とても云がたし草ものは喰切らるゝの恐あるにより見つけ次第取つぶすべし

序に記し置べきものは寄蟲卵なり此は就中薔薇などの新技の柔らかきものに害蝶來りて皮を破り木中へ蟲卵を寄す恐れあるものにて自分其以前薔薇を多く培養したる時尤困りたる一事なるべし

此は虫にはあらざれ共實生物を蒔芽立の際松の芽立には雀を注意すべし必

來りて喰取るものなり
此外書記すべきはあまり肥料を過して土を蒸し腐らしついには糸虫と云ふ白き細き短かきは二三分長きは五六分もあるものを生ず土を掘りて取棄てるべし

草木實驗盆栽仕立秘法終

明治三十五年十月廿三日印刷
明治三十五年十月廿六日發行
明治三十六年十一月十九日四版發行

艸木實驗 盆栽仕立秘法

定價金貳拾五錢

著者 中島信義

發行者 大橋新太郎
東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 水谷景長
東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 合資會社博進社工場
東京市小石川區久堅町百〇八番地

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館